

Desktop On-Call™

Version 2.5

ユーザーズ・ガイド

第1.1版 1998年10月

このマニュアルは、製品の改良その他により適宜改訂されます。

©Copyright IBM Corp. 1998. All rights reserved.

26L4434

Desktop On-Callとは、こんな製品です

Desktop On-Callは、ネットワークを經由して離れた場所にあるコンピュータを操作する「遠隔操作(リモート・コントロール)」を実現するソフトウェアです。リモート・コントロールを可能にするソフトウェアは、以前から他にも存在していました。しかし、従来の製品とDesktop On-Callの間には、ひとつの大きな違いがあります。

既存のリモート・コントロールを可能にするソフトウェアは、手元のコンピュータと遠隔地にある操作される側のコンピュータの両方にリモート・コントロール ソフトウェアをインストールする必要がありました。これに対し、Desktop On-Callは、遠隔地にある操作される側のコンピュータにインストールしておくだけで、手元には、Java アプレットが動作するWebブラウザさえあればリモート・コントロールが可能となります。

例えば、「自分のオフィスのコンピュータを出先や家から使いたいな」という場合、自分のオフィスのコンピュータにDesktop On-Callをインストールしてください。そうすれば、ホームページにアクセスするような感覚で自分のオフィスのコンピュータにアクセスできます。ブラウザの中にコンピュータの画面が現れ、そこで手元にあるコンピュータと同じように操作できるのです。

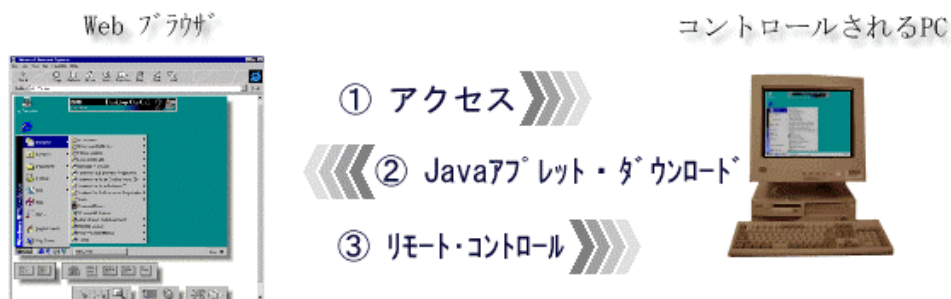
それを可能にしているのは、Java™です。そして、Javaはプラットフォームを選びません。すなわち、手元のコンピュータはWindows®にかぎらず、Mac™でも、Unixでも、Java アプレットが動作するブラウザがあればOKです。

次の3つのステップでブラウザからDesktop On-Callがインストールされているコンピュータをリモート・コントロールできます。

ブラウザにURLアドレスを入力する

Javaアプレットがブラウザにダウンロードされ、ユーザーID、パスワードを入力する。

そして、ブラウザにデスクトップのイメージが現れ、リモート・コントロールが可能になります。



こんなふうに使ってください。

[会議中でも自分のPCにアクセス]

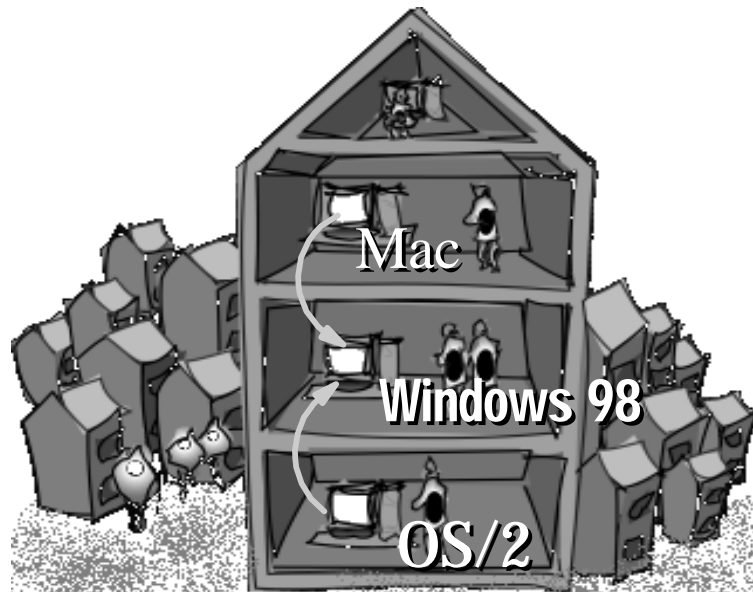
社内で会議やプレゼンテーションの最中に「あっ、あの書類忘れた!」。そんなときでも、会議室の近くにネットワーク接続されたPCがあれば、ちょっとブラウザを拝借して自分のデスクのPCにアクセスして、必要なデータを参照することができます。

[リモートでPCをメンテナンス]

PCの操作や設定がわからない、あるいはトラブルが起きた、そんなときDesktop On-Callを入れておけば、システム管理者やパソコンの達人に操作を教えてもらったり、メンテナンスを代行してもらうことができます。システム管理者にとってもオフィス移動することなく作業できるので、効率化、省力化が図れます。

[SOHO環境で異なるOS間でもリモート・コントロール]

SOHO(Small Office , Home Office)環境では、いろいろなオペレーティング・システムを使っている場合がよくあります。そんな場合でも、Windows 95/98やWindows NT®あるいはOS/2 Warp®のマシンを、いかなるプラットフォームのマシン(例えば、Macや、Unixマシン)からでも操作できます。



目次

第1章	はじめに	8
	本書の構成	8
	本書の読者	8
	本書でのきまり	9
	操作手順の表現方法	9
	PDFファイル	9
	Version 2で追加された新機能	10
	Version 2.5で追加された新機能	12
	セキュリティー機能の強化	12
	ユーザピリティーの強化	12
	英語版対応を同梱	13
	IBM WebBoy for DOS Version 4.0 日本語版サポート	13
	稼働環境	14
	サーバー (コントロールされる側)	14
	クライアント(コントロールする側)	15
第2章	インストール	16
	Windows 95,98,NT 日本語版	17
	OS/2 Warp 日本語版	17
	Windows 95,98,NT 英語版	17
	OS/2 Warp 英語版	17
	リモート・ブラウジング版	17
	Windows 95/98又はWindows NT にインストールする	18
	OS/2 Warp にインストールする	27
	英語版Windows 95/98又はWindows NT にインストールする	33
	英語版OS/2 Warp にインストールする	41
	インストール・ディスクットの作成	47

Windowsの場合	47
OS/2の場合	47
リモート・ブラウジング専用版をインストールする	48
日本語Windows版のインストール	48
日本語OS/2 Warp版のインストール	48
第3章 接続	49
LAN経由で接続	50
電話回線経由で接続	51
コントロールされる側がWindows 95の場合	52
Windows 95/98 ダイアルアップ・ネットワークのインストール	54
Microsoft® PLUS ダイアルアップ サーバーをインストールする	56
サーバー（コントロールされる側）IPアドレスの指定（Windows 95/98）	58
クライアント(コントロールする側)IPアドレスの指定(Windows 95/98)	59
コントロールされる側がWindows NT 4.0の場合	62
Windows NT 4.0 ダイアルアップ ネットワークをインストール	63
ダイアルアップ着信可に設定する-サーバー側（Windows NT）	63
IPアドレスの設定-サーバー側（Windows NT）	65
ダイアルアップのユーザー指定-サーバー側（Windows NT）	66
クライアント側(コントロールする側)のIPアドレス指定(Windows NT)	67
コントロールされる側がOS/2 Warpの場合	69
OS/2 Warp「他のインターネット・プロバイダーへのダイヤル」設定	70
pingを用いたTCP/IPのチェック	74
第4章 機能と設定	75
ブラウザからの操作方法	75
エミュレーション・キーとファンクション・アイコン	77
ラUNCH・マップ機能	79
ラUNCH・マップへのPCの登録方法	81

サンプル・ラウンチ・マップHTML.....	82
新規作成したHTMLをラウンチ・マップに割当てる	88
クライアントから入力可能なイベント	90
マウス.....	90
キーボード	90
出力可能な画面モード	90
ディスプレイ	90
「Desktop On-Call」ウィンドウ	91
Desktop On-Callプロパティ・パネル	92
「接続」パネル.....	92
「サーバー」パネル.....	93
「クライアント」パネル.....	94
「ユーザー」パネル.....	95
「表示」パネル.....	96
「ファイル転送」パネル.....	97
「機能」パネル.....	99
「サーバー管理」パネル.....	100
「アクセスログ」パネル.....	101
第5章 注意事項.....	102
ファイル転送ができない.....	102
マルチ・ディスプレイについて	102
全画面表示のセッションに行ってしまった時の対処方法	102
クライアントから日本語入力をする	103
Mac OSで使用するとき.....	103
リモート・コントロール後ブラウザを終了する	104
リモートからディスプレイ・モードの変更は避ける	104
Netscape Navigator 2.02 for OS/2を使用するとき	104

ブラウザに表示される画面に縦横の色むらが表示される	104
「既にユーザーXXXXにコントロールされています」と表示される	104
「TCP/IPがインストールされていません」と表示される	105
「DHCPサーバーと接続でない」「IP Address を取得できない」と表示される	105
ブラウザにURLを指定しても反応がない	105
「Java.Lang.OutOfMemoryError」と表示して止まる	106
IE使用時、スクロール・バーを使用すると画面表示が乱れることがある。	106
商標	107
特記事項	108

第1章 はじめに

本書は、Desktop On-Call for multiplatforms Version 2.5を使用するためのマニュアルです。Desktop On-Callを使ってパーソナル・コンピュータを遠隔操作(リモート・コントロール)するための手順や操作方法について説明しています。

本書の構成

本書は、次のように構成されています。

第1章、「はじめに」では、Version 2.0およびVersion 2.5で追加された新機能と稼働環境について説明しています。

第2章、「インストール」では、Desktop On-Callを、Windows 95/98/NT、あるいは、OS/2 Warpにインストールする方法と、インストール用ディスクを作成してインストールする方法、英語版をインストールする方法、リモート・ブラウジング専用版をインストールする方法を説明しています。

第3章、「接続」では、Desktop On-Callのネットワーク環境と接続の方法を説明しています。

第4章、「機能と設定」では、メインパネル、プロパティ・パネルの解説とその機能を説明しています。

第5章、「注意事項」では、Desktop On-Callを使用する上で、注意すべき技術情報や、トラブルの対処の仕方を説明しています。


本書の読者

本書は、読者が次の操作を行えることを想定して記述しています。


- Windows 95/98などのオペレーティング・システムの基本操作については、すでに理解していること。
- Netscape® Navigatorなどのブラウザの基本操作については、既に理解していること。
- ネットワーク、あるいはTCP/IPの基本については、既に理解していること。

本書でのきまり

操作手順の表現方法

1. セットアップ・ディスクをドライブAに入れてください。
2.  - 「ファイル名を指定して実行(R)...」を選択してください。


上記は操作の手順を説明しています。

-  ログパネルが表示されインストール・プログラムが始動します。

上記は操作の結果を説明しています。



上記は注意点および追加情報を解説しています。

-  x ページ 「x x x」を参照

上記は参照先を示しています。

PDFファイル

本書のPDF(Portable Document Format)ファイルがCD-ROMに収められています。

Acrobat® Readerまたはブラウザにより閲覧したり、印刷することができます。

Acrobat Reader Copyright© 1987-1997 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

AdobeおよびAcrobatはアドビシステムズ社の商標で、特定の法域で登録されています。

Version 2で追加された新機能

- Windows NTサービス・サポート

Windows NTにインストールすると、サービスとして登録されます。これにより、リモートから再起動し、Windows NTログオン・パネルに入力しログオンすることが可能となります。

■ Windows 95/98でネットワークが設定されている場合、起動直後にログインパネルが表示されますが、このログインパネルにも対応しています。

- OS/2サポート

OS/2 Warp を遠隔操作することができるようになりました。

■ OS/2 Warp Connect 3 日本語版にDesktop On-Callをインストールする場合は、OS/2 Warp Fixpak WX03006以降の Fixpakが適応されている必要があります。

■ OS/2 Warp Connect 3 英語版に Desktop On-Callをインストールする場合は、OS/2 Warp Fixpak XR_W030以降の Fixpakが適応されている必要があります。

- ファイル転送機能

ファイル転送アイコンをクリックすると、コントロールされる側のドライブ、ディレクトリー情報が、ツリー状に表示されます。ファイルをクリックするとブラウザの転送パネルが表示され選択したファイルを受信することができます。

■ ブラウザによっては、あらかじめ予約された拡張名のファイル (例えば、*.GIF)は、そのファイルを表示あるいは再生する機能が自動的に働いてしまいます。そのファイル自体を受信したい場合は、強制保存モードにして受信してください (☞98ページ)。

- 256色画面転送

通常は、画面情報を16色にマッピングしてブラウザに転送しますが、アイドル・タイム(何も操作をしていない時間)を検出すると、256色の色情報を追加送信します。

■ 256色パレットはブラウザに最適化されているため必ずしもサーバー画面と完全に一致するイメージが得られるわけではありません。

- 縮小画面転送

コントロールされる側のPC画面の方が、コントロールする側の画面より大きい場合、縮小ボタンを押すと縮小したデスクトップイメージが転送され、ブラウザ内にデスクトップ全体が表示できます。また、アンチ・エイリアス機能を使うことにより、縮小した状態でも高品質画面を表示します。

- 壁紙(Wall Paper)自動解除

コントロールされる側のデスクトップに壁紙(Wall paper)を設定していると、転送情報量が増えるためパフォーマンスが低下してしまいます。これを避けるため、リモート・コントロール時のみ、自動的に壁紙を解除する機能です。

この機能は、Windowsでサポートされます。OS/2ではサポートされません。

- PC-98 キーボード・サポート

コントロールされる側のPCで、NEC™ PC-98 キーボードを使用している場合、PC-98キーボード特有のキーをエミュレーション・キーとしてブラウザ内デスクトップの下にボタンを設けサポートします。

OS/2では、NEC PC-98キーボードはサポートされません。

- 全画面表示になってしまったときの対処方法 (Version 2.01) (☞102ページ)
- Windows 98 サポート (Version 2.01)

Version 2.5で追加された新機能

セキュリティ機能の強化

- パスワードの暗号化
パスワードは独自の方式で暗号化され、セキュリティ・チェックが行われます。
- アクセスできるIPアドレスの制限
アクセスできるIPアドレスを定義し、それ以外のIPアドレスからのアクセスを拒否できます。
- リモートからの操作を制限できるオプション
Desktop On-CallがインストールされているPCに対して、以下のリモートからの操作を制限できます。
 - Desktop On-Call プロパティの変更: リモートから設定の変更をされたくない場合に非選択にします。
 - マウスやキーボード入力: リモートから操作されたくない場合に非選択にします。
 - ファイル転送: ファイル転送を禁止したい場合に非選択にします。
- リモートからのログ消去の禁止
リモートからアクセス・ログの消去を禁止しました。
- リモート・ブラウジング専用版
デスクトップの状態を見せるだけで操作されたくない場合には、リモート・ブラウジング専用版をインストールします。ただし、リモート・ブラウジング専用版をインストールした場合には、インストール後、リモートから操作できるように変更することはできません。

ユーザビリティの強化

- グループ管理できるラUNCH・マップのサポート
Desktop On-Callをインストールした(操作される側の)PCを、常時複数サポートしたい場合、この機能を用いることでURLを打ち込んで変更することなく、ラUNCH・マップに登録してあるユーザーへのアクセスができます。また標準的なラUNCH・マップの他に、html形式のラUNCH・マップをカスタマイズして利用することもできます。

- エミュレーション・キーの小ボタン化
ブラウザに表示されているデスクトップのサイズに合わせて、エミュレーション・キーのサイズが変わります。
- 接続表示ウィンドウの省略時最小化オプション
従来のDesktop On-Callでは、接続されている情報がIPアドレスとともに画面の上部に表示されていましたが、このオプションを選択することで最小化された形で表示されるようになります。

英語版対応を同梱

英語環境のオペレーティング・システムで利用可能です。

IBM WebBoy for DOS Version 4.0 日本語版サポート

IBM WebBoy for DOS V4.0日本語版（以下、WebBoy V4）から、Desktop On-Call Version 2.5がインストールされているPCをリモート操作することが可能になります。（別途、購入が必要です。プログラム番号：26L5430）

WebBoy V4 は、DOS/V専用のコンパクトなWebブラウザです。

WebBoy V4 を使用すれば、CPUやメモリーの制限によってWindowsやOS/2 Warp等のオペレーティング・システムを利用することが困難なPCの上でも、インターネットにアクセスできます。もちろん電子メール(E-Mail)機能も利用可能です。PPPダイヤルアップIP接続機能とLAN接続機能を備えていますので、個人としてご家庭などからご使用になる場合でも、また会社内のLAN環境にてご使用になる場合などでも、いずれにも対応することができます。



稼働環境

サーバー (コントロールされる側)

Desktop On-Call 日本語版

	オペレーティングシステム	キーボード
IBM製パーソナル コンピューターお よびその互換機 (NEC PC98-NXを 含む)	Windows 95/98 日本語版	106キーボード
	Windows NT 4.0 Workstation 日本語版 (Intel版)	101キーボード
	Windows NT 4.0 Server 日本語版 (Intel版)	
	OS/2 Warp Connect 3 日本語版(+WX03006)	106キーボード
	OS/2 Warp Server 4 日本語版	
	OS/2 Warp 4 日本語版	
NEC PC9821	Windows 95/98 日本語版	98キーボード
	Windows NT 4.0 Workstation 日本語版 (Intel版)	
	Windows NT 4.0 Server 日本語版 (Intel版)	

ハードディスク : 4MB以上の空き容量が必要。

メモリー : 16MB以上 (32MB以上を推奨)

- 109キーボードは106キーボードとして機能します。
- 101キーボード専用版 上記と同じ稼働環境です。

TCP/IPネットワークに接続していることが条件となります。

- 電話回線を利用しモデムによるダイヤルアップ接続する場合は、モデム - 電話回線 - モデムにTCP/IPネットワークを確立することが必要となります。☞51ページ「電話回線経由で接続を参照」TCP/IPネットワークの設定を行ってください。

Desktop On-Call 英語版

	オペレーティングシステム	キーボード
IBM製パーソナルコンピュータおよびその互換機	Windows 95/98 英語版 Windows NT 4.0 Workstation 英語版 (Intel版) 英語版 Windows NT 4.0 Server 英語版 (Intel版)	101キーボード
	OS/2 Warp Connect 3 英語版 (+XR_W030) OS/2 Warp Server 4 英語版 OS/2 Warp 4 英語版	101キーボード

ハードディスク : 4MB以上の空き容量が必要。

メモリー : 16MB以上 (32MB以上を推奨)

104キーボードは101キーボードとして機能します。

クライアント(コントロールする側)

Javaアプレットが動作するブラウザ (あるいは、WebBoy for DOS V4.0)

なお、稼働を確認済みの構成は以下の通り、

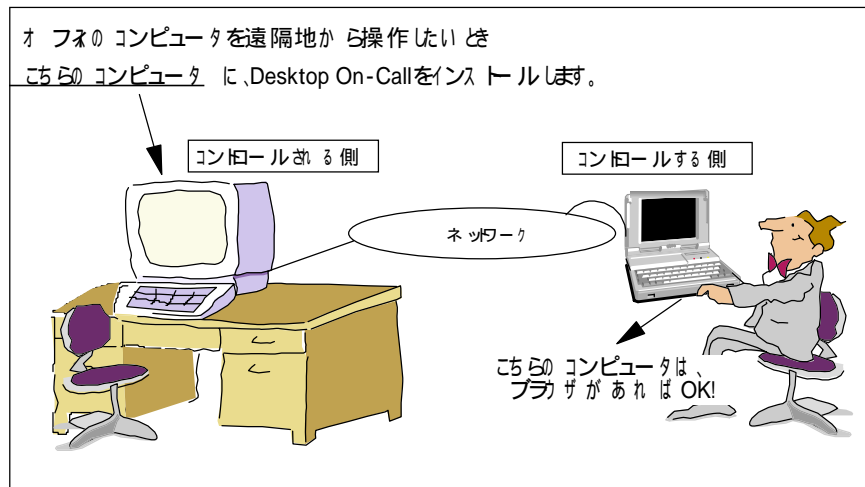
ハードウェア: IBM PC, Aptiva, ThinkPad, NEC** PC-98**/PC98-NX**, Apple** PowerMAC**

OS : Windows 95/98, Windows NT 4.0, OS/2 Warp 4, MAC** OS8**

ブラウザ : Internet Explorer** 3.0/4.0, Netscape communicator** 4.0, HotJava**, Netscape Navigator 2.02/4.04(OS/2版)+JDK 1.1.4

第2章 インストール

Desktop On-Callは、パーソナルコンピュータをリモート・コントロールするツールです。使用される構成として、コントロールされる側（サーバー：奉仕する側）のパーソナルコンピュータとコントロールする側（クライアント：依頼する側）があります。Desktop On-Callはコントロールされる側（サーバー）のパーソナルコンピュータにインストールしてください。



Desktop On-Call Version 2.5は、英語版、リモート・ブラウジング専用版が追加されたことにより、CD-ROMには以下の6種類のDesktop On-Callが収録されています。

- Windows 95,98,NT 日本語版
- OS/2 Warp 日本語版
- Windows 95,98,NT 英語版
- OS/2 Warp 英語版
- Windows 95,98,NT 日本語リモート・ブラウジング版
- OS/2 Warp 日本語リモート・ブラウジング版

この章では、Desktop On-Call 各版をインストールする方法を説明します。

Windows 95,98,NT 日本語版

☞ 18ページ 「Windows 95/98又はWindows NT にインストールする」を参照してください。

また、Windows 95,98,NT 日本語版はCD-ROMドライブの付いていないパーソナルコンピュータにインストールするために、ディスクットを作成することができます。ディスクットの作成の方法については☞47ページ 「インストール・ディスクットの作成」を参照してください。

OS/2 Warp 日本語版

☞ 27ページ 「OS/2 Warp にインストールする」を参照してください。

また、OS/2 Warp 日本語版はCD-ROMドライブの付いていないパーソナルコンピュータにインストールするために、ディスクットを作成することができます。ディスクットの作成の方法については☞47ページ 「インストール・ディスクットの作成」を参照してください。

Windows 95,98,NT 英語版

☞ 参照：33ページ 「英語版Windows 95/98又はWindows NT にインストールする」

OS/2 Warp 英語版

☞ 参照：41ページ 「英語版OS/2 Warp にインストールする」

リモート・ブラウジング版

リモート・ブラウジング版は、日本語Windows版と、日本語OS/2 Warp版がありません。

☞ 参照：48ページ 「リモート・ブラウジング専用版をインストールする」

Windows 95/98又はWindows NT にインストールする

Windows NT にインストールする場合には、 **Administrator 権限のあるユーザー**でログインしてインストールしてください

1. Desktop On-CallのCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。

1. デスクトップからインストールする場合は、デスクトップに Desktop On-Call デスクトップを挿入してください。

2. **スタート** - 「ファイル名を指定して実行 (R)...」を選択し a:¥setup.exeを実行してください。(NEC PC-98 の場合は、c:¥setup.exe) Install Shieldのマークが動き出します。

2. Desktop On-Callのインストール用のパネルが表示されます。



CD-ROMドライブの設定で自動挿入 (CD-ROMの挿入をWindows に通知するオプション)が選択されていないと Desktop On-Callのインストール用のパネルが表示されません。このオプションを選択するには、コントロールパネルのシステムを開き、「デバイスマネージャ」タブを選択し、CD-ROMの下位 CD-ROMドライブのプロパティを開き、設定のタブを選択しオプション中の「自動挿入」あるいは「挿入の自動通知」を選択してください。(CD-ROMドライブによって異なります。)再起動が必要です。

2. 「インストールの開始」を選択してください。

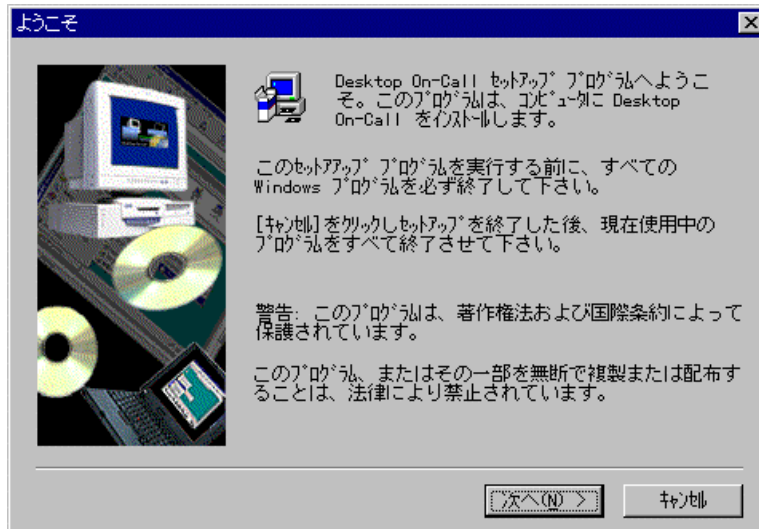
- CD-ROMドライブの設定で自動挿入 (CD-ROMの挿入をWindowsに通知するオプション)が選択されていない場合は、x:auto\auto.exe (x:は、実際にメディアを挿入したドライブを指しています。)を入力し、OKを選択してメニューパネルからインストールの開始を選択してください。

☞ Install Shieldウィザードが動きます。



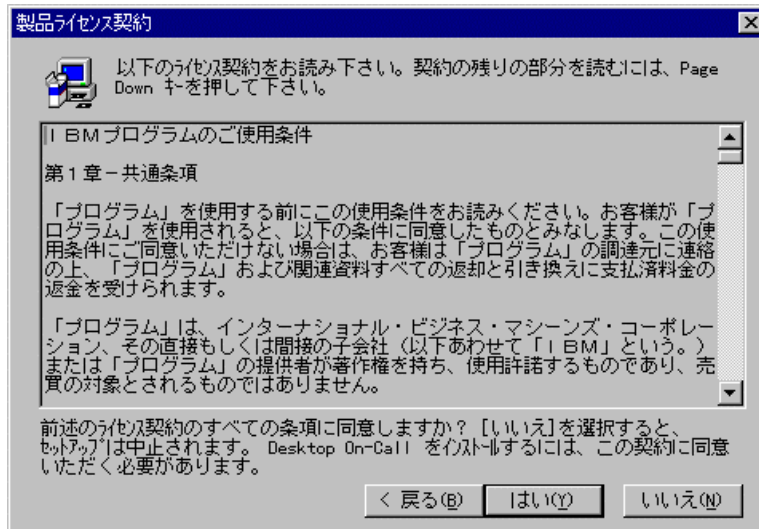
- Install Shieldウィザードが 100%になった直後インストールが突然終了してしまった場合は、コントロールパネルの「地域」を日本語にして再度インストールしてみてください。

- ☞ ログパネルが表示され「ようこそ」の panels が表示されます。



- 3. 「次へ」を選択してください。

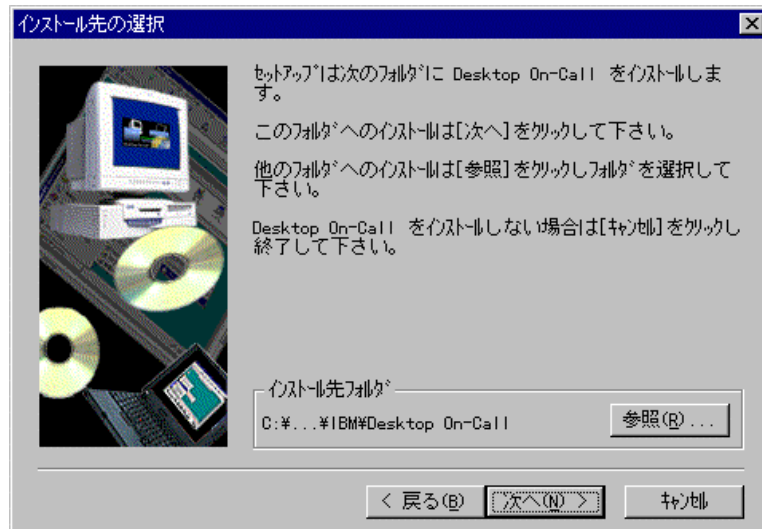
- ☞ 「ソフトウェアライセンス同意書」ダイアログが表示されます。



- 4. ソフトウェアライセンス同意書に同意する場合は「はい」を選択します。同意しない場合は「いいえ」を選択します。

「はい」を選択した場合は、セットアップが続行されます。「いいえ」を選択した場合は、セットアップは中止されます。

- ☞ 「インストール先の選択」のパネルが表示されます。



5. 表示されているディレクトリーでよければ「次へ」を選択してください。別のディレクトリーにインストールする場合は「参照」を選択しフォルダを指定してください。

- ☞ セキュリティのパネルが表示されます。



6. ここで接続時にユーザーIDとパスワードを要求するかどうかを設定できます。ユーザーIDとパスワードを要求する場合は、「はい」を選択して「次へ」を選択してください。要求しない場合は、「いいえ」を選択し「次へ」

を選択して8番に進んでください。（インストール完了後も、追加設定、削除等行うことができます。）

- ☞ セキュリティのパネルで「はい」を選択した場合は、ユーザーID、パスワードを入力するパネルが表示されます。



7. ユーザーIDとパスワードを入力して「次へ」を選択してください。

- ☞ 他のHTTPデーモンのパネルが表示されます。



8. 他のHTTPデーモンを使用していない場合は、「いいえ」を選んで「次へ」を選択してください。

☞ 「はい」を選択した場合は、HTTPポート番号のパネルが表示されます。



☞ 例えば、WWWサーバー/Webサーバー等のインターネットホームページサーバーとして運営している場合は、HTTPデーモンのポート番号が重複しないよう調整する必要があります。通常のWWWサーバーのポート番号は、80になっています。これと重複しないよう5000~65535のポート番号を指定してください。

9. 「次へ」を選択してください。

☞ プログラムの自動実行のパネルが表示されます。



10. システム起動時に、Desktop On-Call サーバーを自動始動させる場合は、「はい」にマークし「次へ」を選択してください。

☞ プログラムフォルダーの選択のパネルが表示されます。



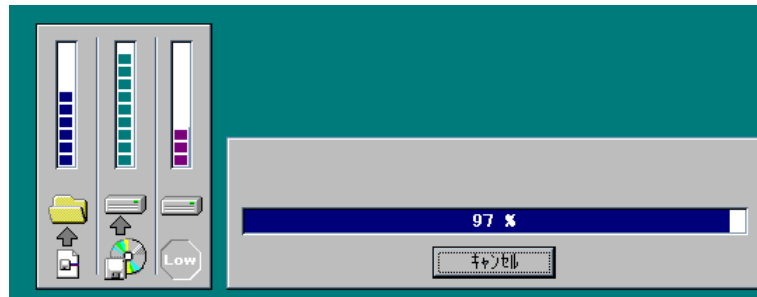
11. プログラムを格納するフォルダー名を指定します。よければ、「次へ」を選択してください。

- ☞ ファイルコピーの開始のパネルが表示されます。



12. 現在の設定を確認してください。よければ、「次へ」を選択してください。プログラムのコピーが始まります。

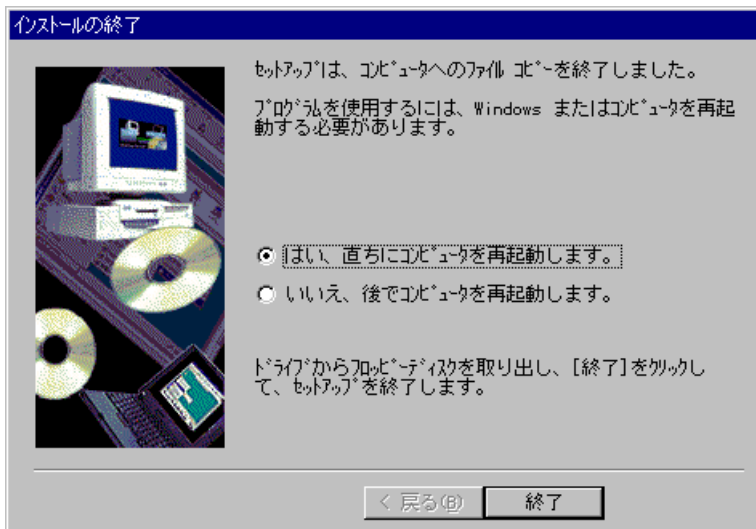
- ☞ ファイルがコピーされます。



- ☞ Windows 95/98の場合は、以下のインストールの終了パネルが表示されま
す。



- ☞ Windows NTの場合は、以下のインストールの終了パネルが表示されます。



13. 「終了」を選択してください。Windows NTの場合は再起動が必要です。

これでインストールは完了しました。

OS/2 Warp にインストールする

1. Desktop On-CallのCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。

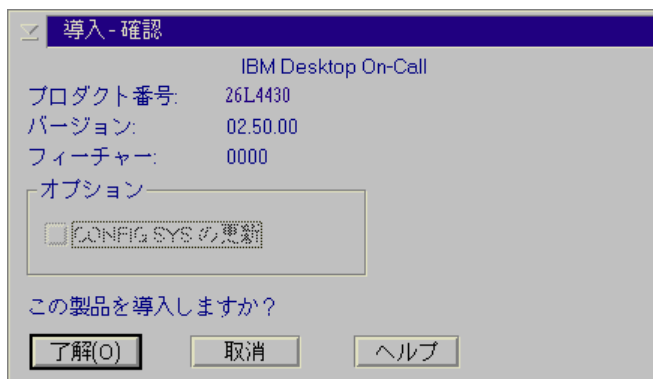
■ ディスケットからインストールする場合は、ディスクドライブに Desktop On-Call ディスケットを挿入してください。ディスク作成方法、47ページを参照してください。

2. OS/2コマンド・プロンプトを開いてください
3. x:¥INSTALL.EXEと入力しOKを選択してください。(x:は、実際にメディアを挿入したドライブを指定します。)

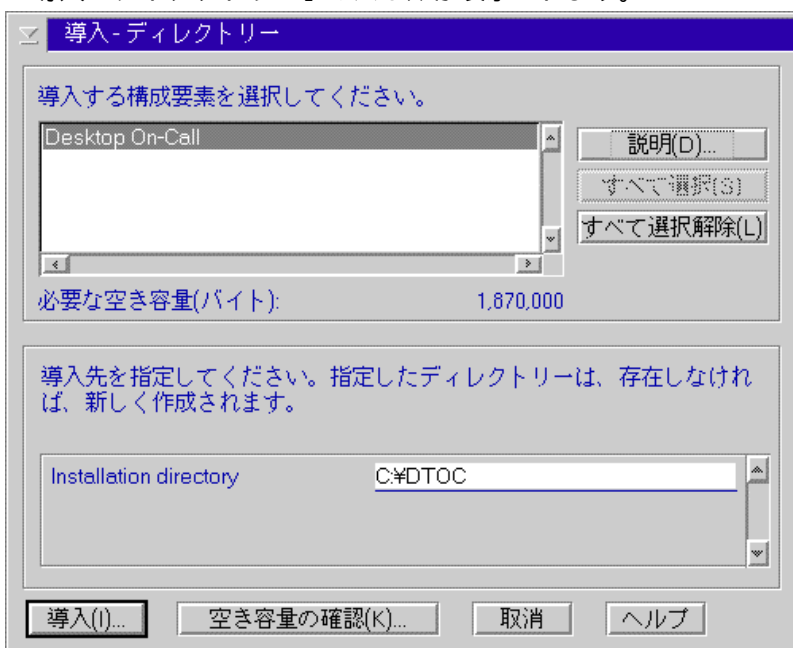
☞ 「Desktop On-Callの導入」と「ライセンス情報」ダイアログが表示されます。



4. ソフトウェアライセンス同意書に同意する場合は「継続」を選択します。同意しない場合は「取消」を選択します。
- ☞ 「継続」を選択した場合は、セットアップが続行され、「導入 - 確認」パネルが表示されます。「取消」を選択した場合は、セットアップは中止されます。

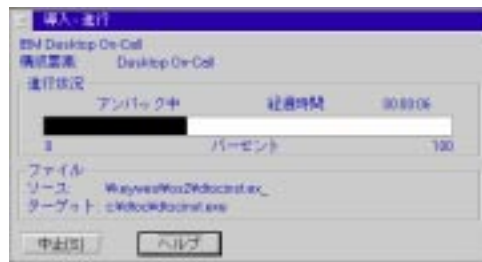


- 「了解(O)」を選択してください。
- 「導入 - ディレクトリー」のパネルが表示されます。



- 「Desktop On-Call」を選択し、表示されているディレクトリーでよろしければ「導入(I)...」を選択してください。別のディレクトリーにインストールしたい場合は、導入先ディレクトリーを入力してください。

- ☞ ファイルのコピーが開始されます。



- ☞ 「Desktop On-Callの設定」のパネルが表示されます。



7. 「次へ(N)」を選択してください。

- ☞ セキュリティのパネルが表示されます。



8. ここで接続時にユーザーID、パスワードを要求するかどうかを設定できま

す。ユーザーID、パスワードを要求する場合は、「はい」を。要求しない場合は、「いいえ」を選択し「次へ」を選択してください。

- ☞ セキュリティのパネルで「はい」を選択した場合は、ユーザーID、パスワードを入力するパネルが表示されます。



ID, パスワード

インターネット・ブラウザからこのマシンにアクセスするためには、ID とパスワードが必要です。

ID:

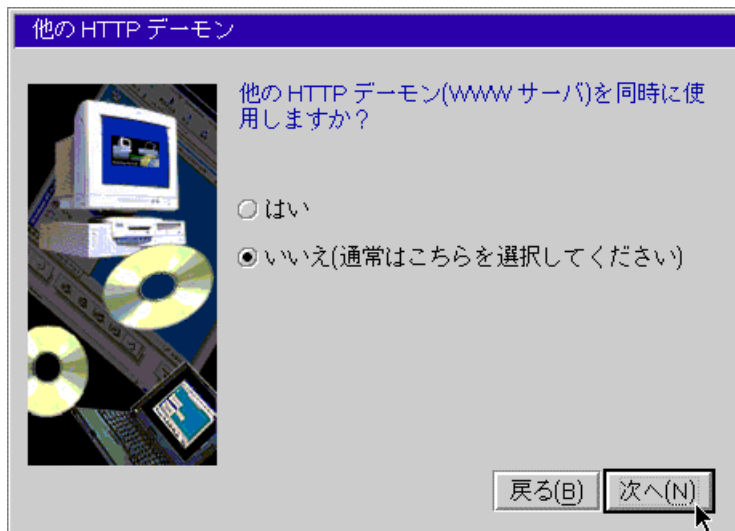
パスワード:

パスワードの確認:

戻る(B) 次へ(N)

9. ユーザーID、パスワードを入力して「次へ」を選択してください。

- ☞ 他のHTTPデーモンのパネルが表示されます。



他のHTTP デーモン

他のHTTP デーモン(wwwサーバ)を同時に使用しますか?

はい

いいえ(通常はこちらを選択してください)

戻る(B) 次へ(N)

10. 他のHTTPデーモンを使用していない場合は、「いいえ」を選んでください。

- ☞ 例えば、WWWサーバー（ホームページ・サーバー等）として運営している場合は、HTTPデーモンのポート番号がぶつからないよう調整する必要があります。通常のWWWサーバーのポート番号は、80になっています。これとぶつからないよう例えば、5000～65535のポート番号を指定してください。

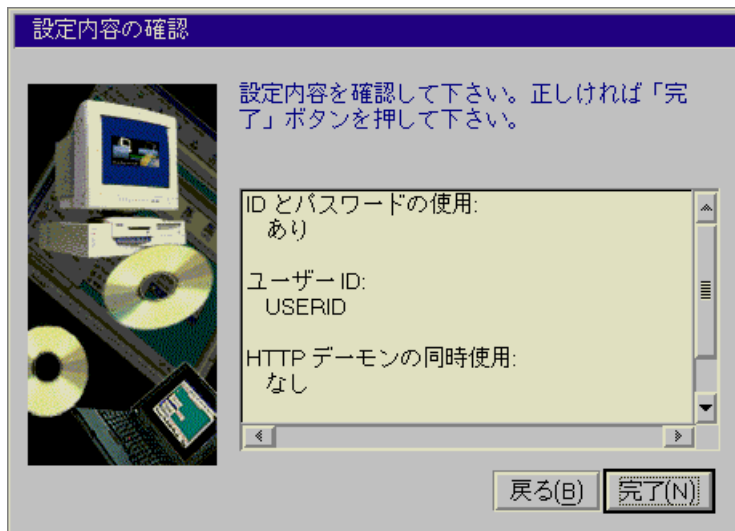


- ☞ 「プログラムの自動実行」のパネルが表示されます。



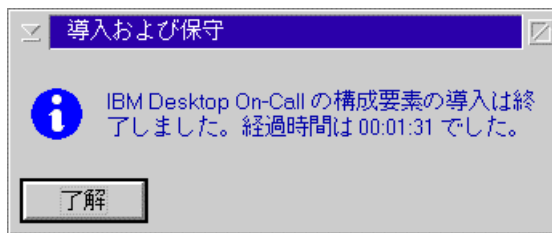
11. システム起動時に、Desktop On-Call サーバーを自動始動させる場合は、「はい」にマークし「次へ」を選択してください。

- ☞ 「設定内容の確認」のパネルが表示されます。



12. 完了を選択してください。

- ☞ 「導入および保守」のパネルが表示されます。



13. 「了解」を選択してください。これでインストールは完了しました。システムを再起動させてください。


英語版Windows 95/98又はWindows NT にインストールする

英語版のWindows 95/98 又は、Windows NTマシンをリモートからコントロールしたい場合は、英語版Desktop On-Callが、CD-ROMの¥english.winディレクトリーにありますので、以下の要領でインストールしてください。

■ Windows NT にインストールする場合には、 **Administrator 権限のあるユーザー**でログインしてインストールしてください

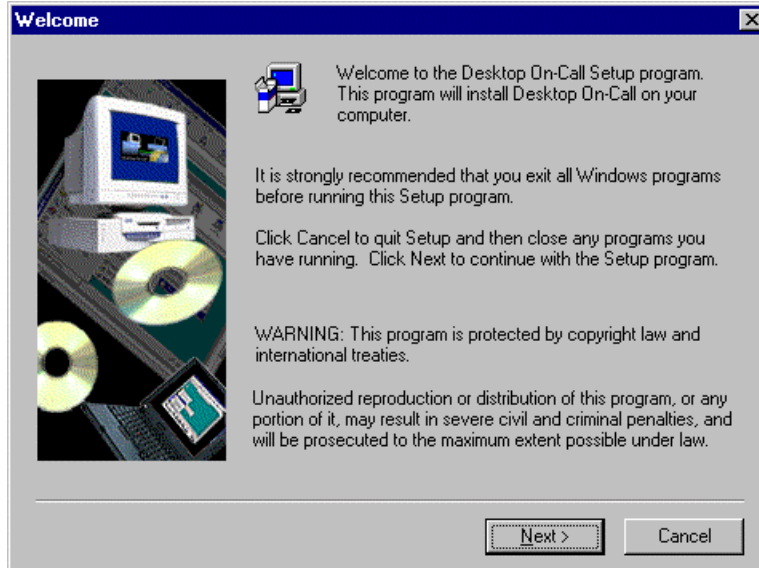
1. Desktop On-CallのCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。

■ 英語版の Windows 95/98 又は Windows NT のマシンに、Desktop On-Call CD-ROM をセットすると Autorin.inf に指定されている Auto.exe が起動し、日本語の入ったパネルが字化けして表示されています。左上の × を押しステップからインストールを進めてください。

2.  - 「Run...」を選択します。
 3. x:¥english.win¥setup.exe (x:は、実際にメディアを挿入したドライブを指しています。) と入力しOKを選択してください。
- ☐ Install Shieldウィザードが動きます。

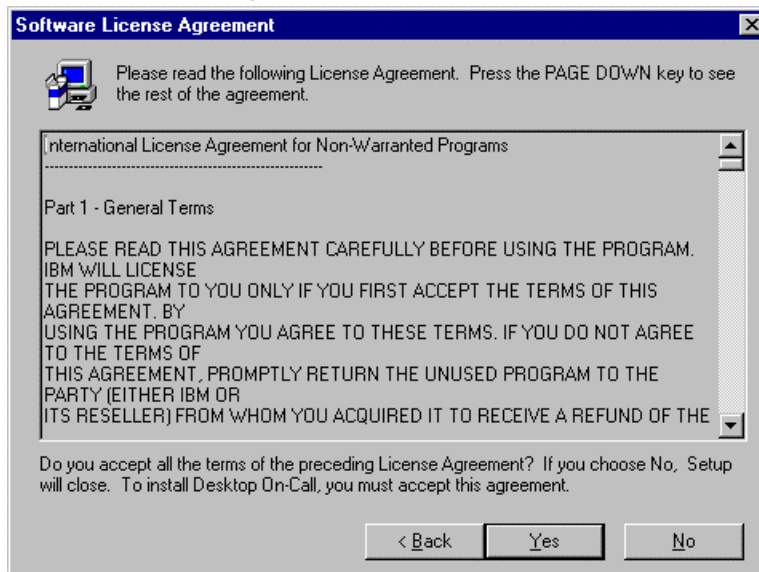


- ☞ ログパネルが表示されインストール・プログラムが始動し「Welcome」のパネルが表示されます。



- 4. 「Next」を選択してください。

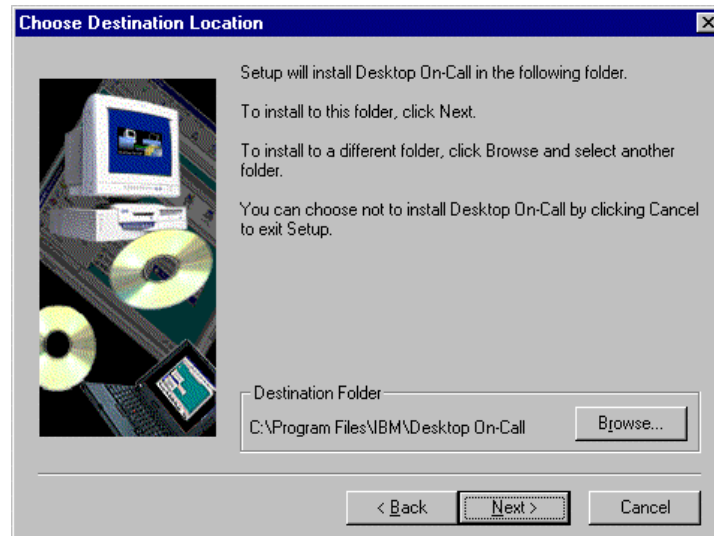
- ☞ 「Software License Agreement」ダイアログが表示されます。



- 5. Software License Agreementに同意する場合は「Yes」を選択します。同意し

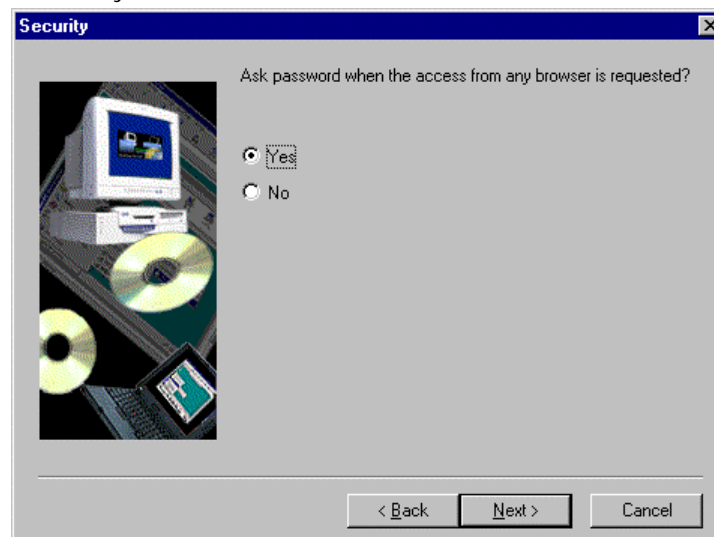
ない場合は「No」を選択します。「Yes」を選択した場合は続行します。
「No」を選択した場合は、セットアップは中止されます。

- ☞ 「Choose Destination Location」のパネルが表示されます。

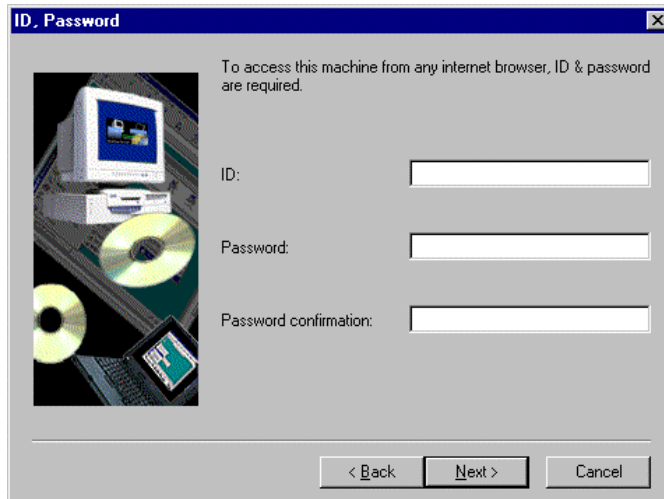


6. 表示されているディレクトリーでよければ「Next」を選択してください。別のディレクトリーにインストールしたい場合は「Browse...」を選択しフォルダを指定してください。

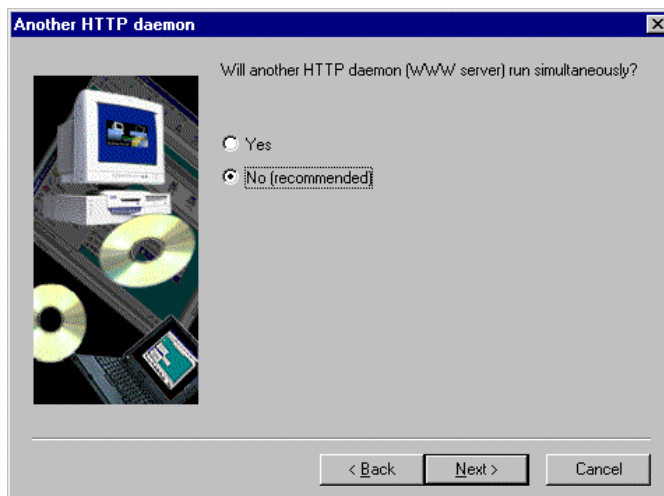
- ☞ 「Security」のパネルが表示されます。



7. ここで接続時にユーザーID、パスワードを要求するかどうかを設定できます。ユーザーID、パスワードを要求する場合は、「Yes」を選択してください。要求しない場合は、「No」を選択し「Next」を選択して「ID, Password」のパネルをスキップしてください。（インストール完了後も、追加設定、削除等行えます。）
- ☞ Securityのパネルで「Yes」を選択した場合は、「ID, Password」パネルが表示されます。

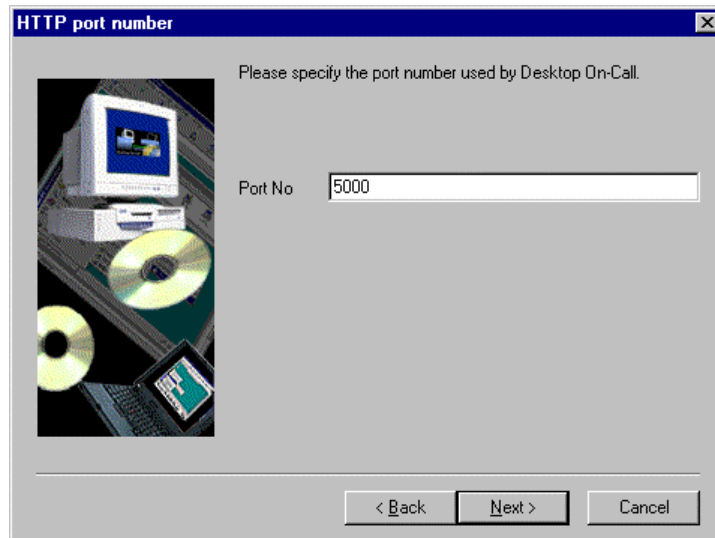


8. ユーザーID、パスワードを入力して「Next」を選択してください。
- ☞ 「Another HTTP daemon」のパネルが表示されます。



9. 他のHTTPデーモンを使用していない場合は、「No」を選んで「Next」を選択してください。

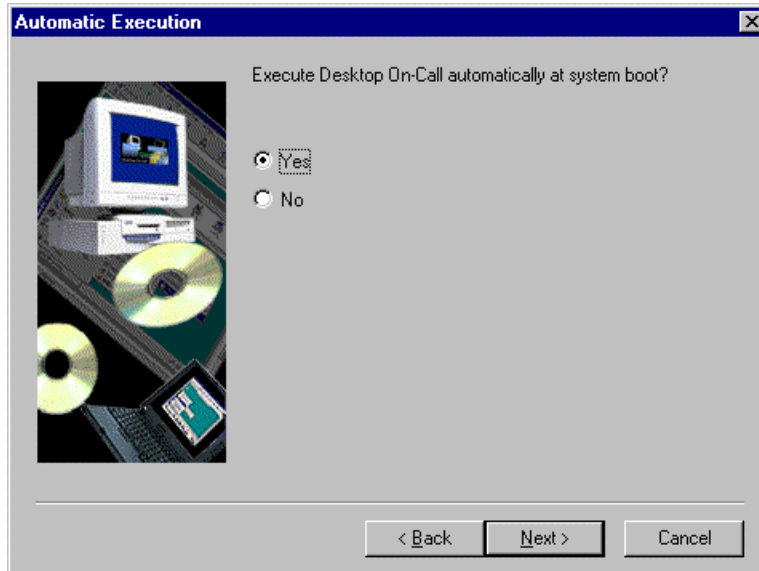
☞ 「Yes」を選択した場合は、「HTTP port number」パネルが表示されます。



☞ 例えば、WWWサーバーやWebサーバー等のインターネットホームページサーバーとして運営している場合は、HTTPデーモンのポート番号がわからないよう調整する必要があります。通常のWWWサーバーのポート番号は、80になっています。これとわからないよう5000~65535のポート番号を指定してください。

10. 「Next」を選択してください。

☞ 「Automatic Execution」パネルが表示されます。



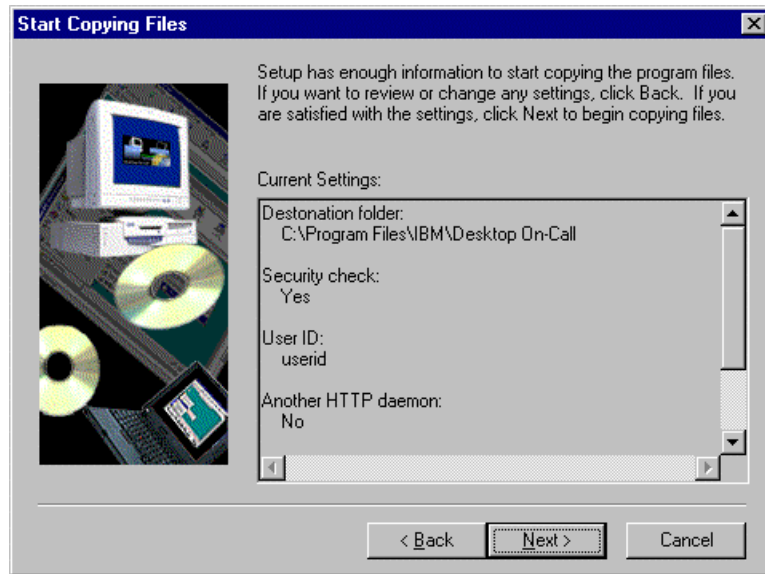
11. システム起動時に、Desktop On-Call サーバーを自動始動させる場合は、「Yes」にマークし「Next」を選択してください。

☞ 「Select Program Folder」パネルが表示されます。



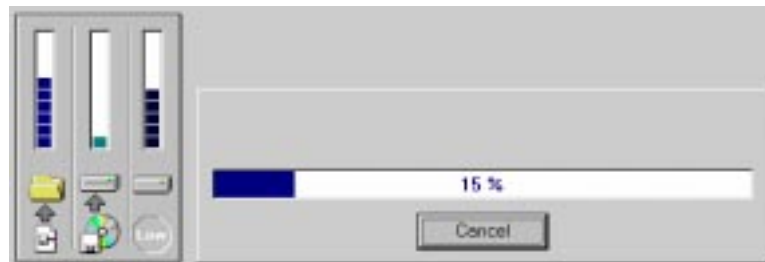
12. プログラムを格納するフォルダー名を指定します。よろしければ、「Next」を選択してください。

☞ 「Start Copying Files」パネルが表示されます。

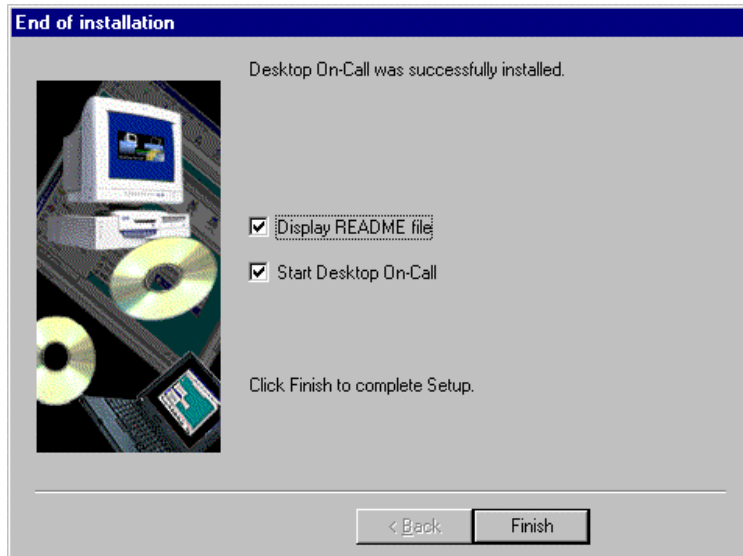


13. 現在の設定を確認してください。よろしければ、「Next」を選択してください。プログラムのコピーを開始いたします。

☞ ファイルがコピーされます。



- ☞ Windows 95/98の場合は、以下の「End of installation」パネルが表示されます。



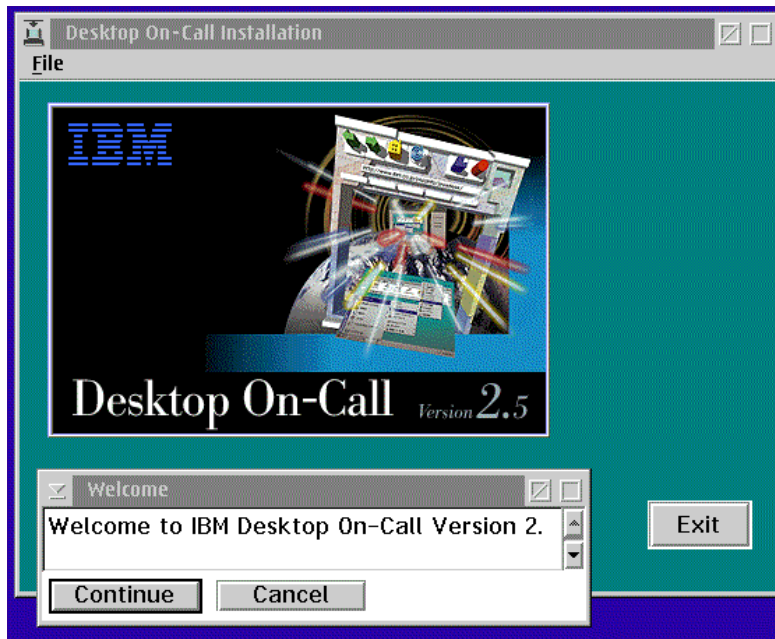
- ☞ Windows NTの場合は、以下の「End of installation」パネルが表示されます。



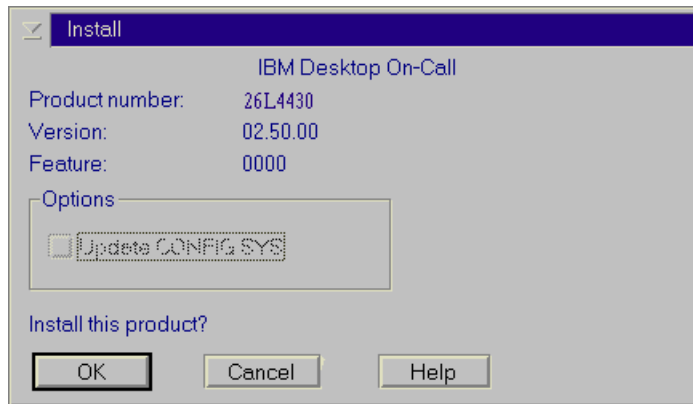
14. 「Finish」を選択してください。Windows NTの場合は再起動が必要です。これでインストールは完了しました。

英語版OS/2 Warp にインストールする

1. Desktop On-CallのCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。
 2. OS/2コマンド・プロンプトを開いてください
 3. x:\¥english.os2¥INSTALL.EXEと入力しOKを選択してください。（x:は、実際メディアを挿入したドライブを指定します。）
- ☞ 「Desktop On-Call Installation」と「Welcome」ダイアログが表示されます。

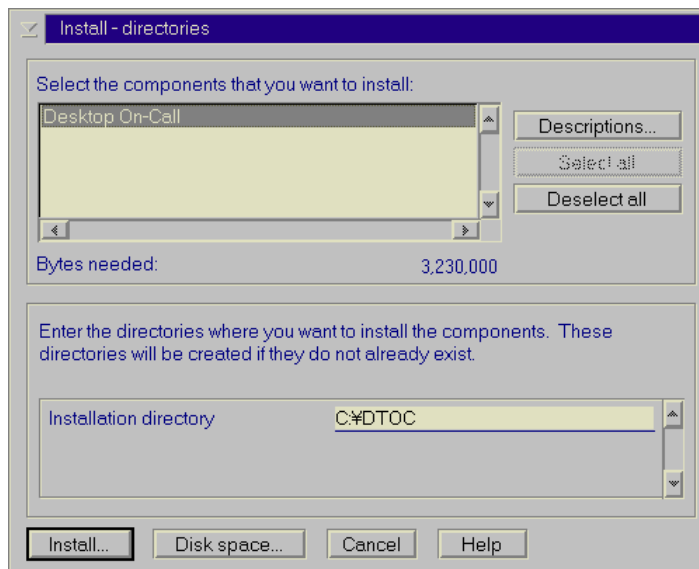


4. ソフトウェアライセンス同意書に同意する場合は「Continue」を選択します。同意しない場合は「Cancel」を選択します。
- ☞ 「Continue」を選択した場合は、セットアップが続行され、「Install」パネルが表示されます。「Cancel」を選択した場合は、セットアップは中止されます。



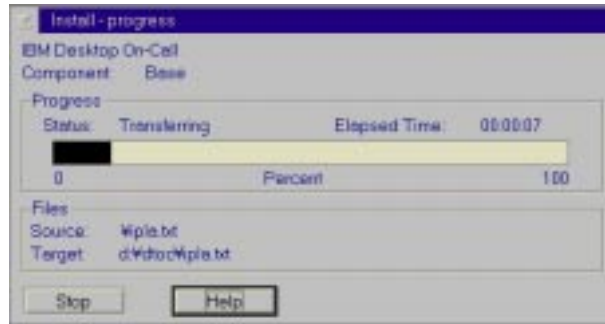
5. 「OK」を選択してください。

☞ 「Install - directories」のパネルが表示されます。



6. 「Desktop On-Call」を選択し、表示されているディレクトリーでよろしければ「Install...」を選択してください。別のディレクトリーにインストールしたい場合は、導入先ディレクトリーを入力してください。

- ☞ ファイルのコピーが開始されます。



- ☞ 「Desktop On-Call Setup」のパネルが表示されます。

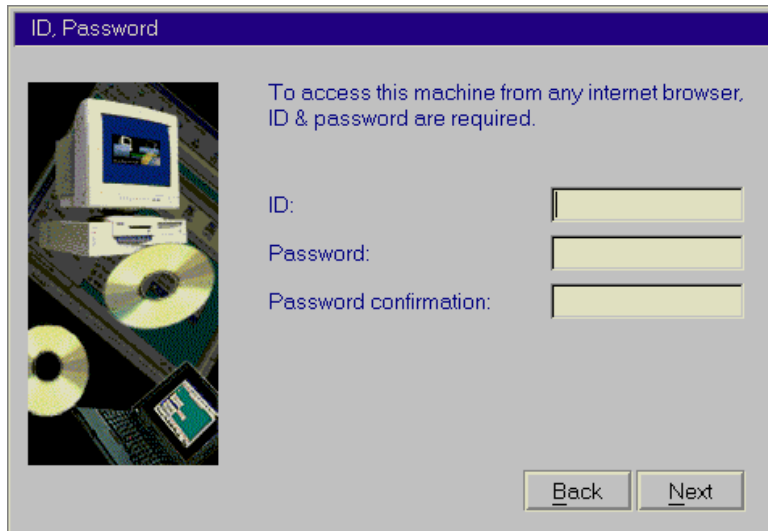


7. 「Next」を選択してください。

- ☞ 「Security」パネルが表示されます。



8. ここで接続時にユーザーID、パスワードを要求するかどうかを設定できます。ユーザーID、パスワードを要求する場合は、「Yes」を。要求しない場合は、「No」を選択し「Next」を選択してください。
 - ☞ セキュリティのパネルで「Yes」を選択した場合は、「ID, Password」パネルが表示されます。



ID, Password

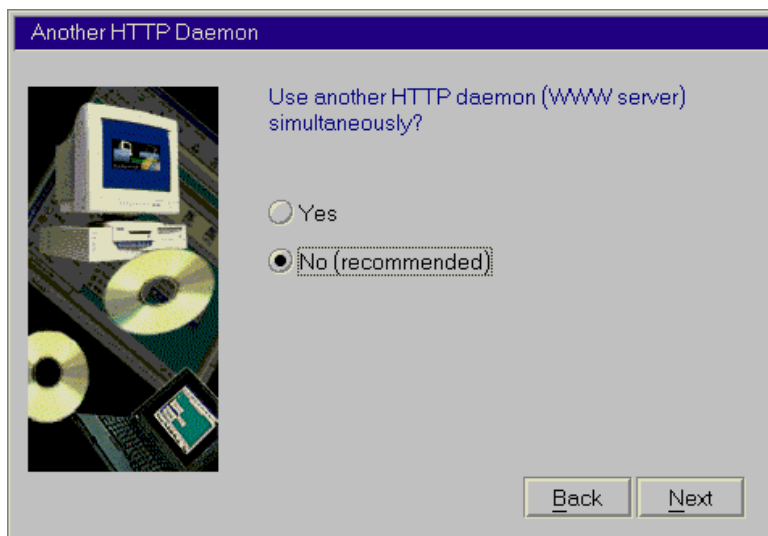
To access this machine from any internet browser, ID & password are required.

ID:

Password:

Password confirmation:

9. ユーザーID、パスワードを入力して「Next」を選択してください。
 - ☞ 「Another HTTP Daemon」パネルが表示されます。



Another HTTP Daemon

Use another HTTP daemon (WWW server) simultaneously?


Yes

No (recommended)

10. 他のHTTPデーモンを使用していない場合は、「No」を選んでください。

■ 例えば、WWWサーバー（ホームページサーバー等）として運営している場合は、HTTPデーモンのPort Numberがわからないよう調整する必要があります。通常のWWWサーバーのポート番号は、80になっています。これとわからないよう例えば、5000~65535のポート番号を指定してください。

HTTP Port Number




Please specify the port number used by Desktop On-Call

Port Number :

■ 「Automatic Execution」パネルが表示されます。

Automatic Execution



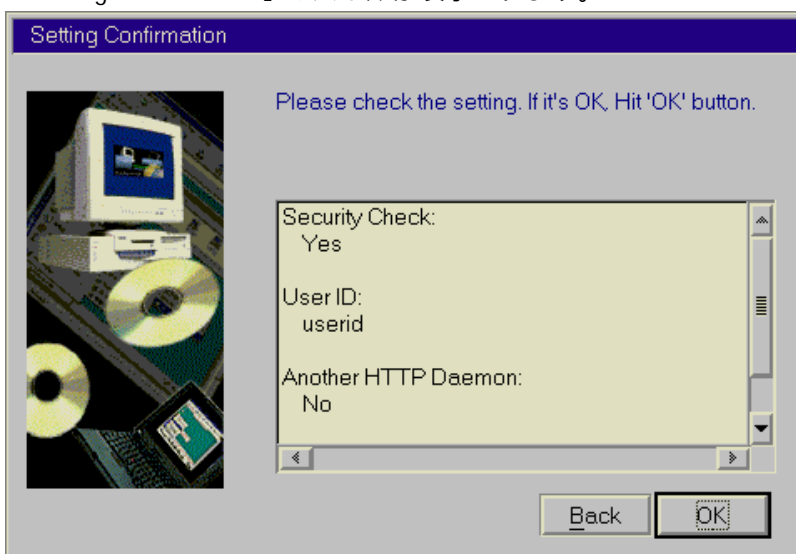
Execute Desktop On-Call automatically at system boot?

Yes

No

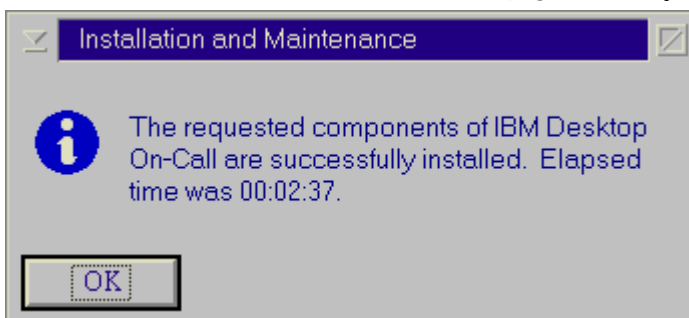
11. システム起動時に、Desktop On-Call サーバーを自動始動させる場合は、「Yes」にマークし「Next」を選択してください。

☞ 「Setting Confirmation」のパネルが表示されます。



12. 「OK」を選択してください。

☞ 「Installation and Maintenance」のパネルが表示されます。



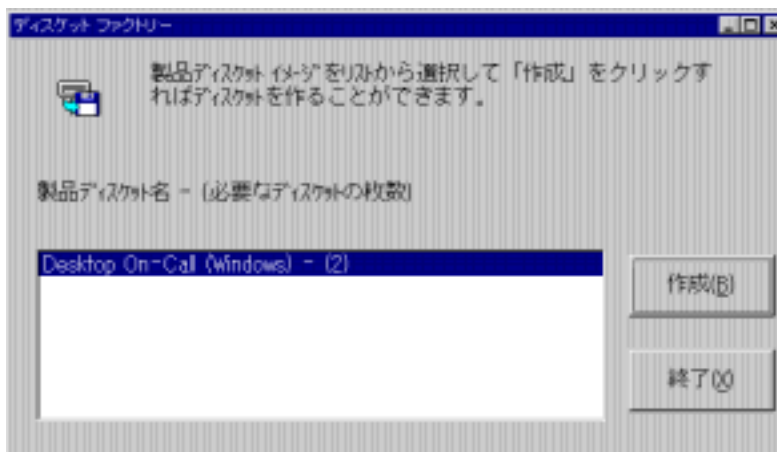
13. 「OK」を選択してください。これでインストールは完了しました。システムを再起動させてください。

インストール・ディスクの作成

CD-ROMドライブの付いていないノートブック・コンピュータ等にインストールするために、ディスクを作成できます。

Windowsの場合

1. オートスタートパネルのインストールディスクの作成を選択するか、CD-ROMの¥FACTORY¥FACTORY.EXEを起動してください。



2. 「作成」を選択して画面の指示に従ってください。

■ NEC PC-98でディスクを作成する場合は、ディスクドライブが、C:になります。

OS/2の場合


1. CD-ROMのルート・ディレクトリーにあるInstall.exeを実行してください。
2. 「ディスクの作成」を選択し画面の指示に従ってください。

リモート・ブラウジング専用版をインストールする

Desktop On-Callリモート・ブラウジング専用版とは、デスクトップの状態をブラウザで見ることのできる監視のみの機能をもったDesktop On-Callです。Desktop On-Callは、リモートからPCの全ての操作ができてしまうので、セキュリティの観点から、監視目的のみ（操作はできない）で使いたい場合や、インストール後も一切設定等を変更させたくないという場合にインストールしてください。

日本語Windows版のインストール

CD-ROMの¥VIEWONLY.WINディレクトリーにあります。インストール手順は、通常のDesktop On-Callとほぼ同じです。

1. Desktop On-CallのCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。
2.  スタート - 「ファイル名を指定して実行...」を選択します。
x:¥viewonly.win¥setup.exe (x:は、実際にメディアを挿入したドライブを指しています。)と入力しOKを選択してください。
3. 18ページ「Windows 95/98又はWindows NT にインストールする」のステップ2以降を参照してください。

インストールが完了すると「Desktop On-Call リモート・ブラウジ^ング」というメニューが登録されます。

日本語OS/2 Warp版のインストール

1. Desktop On-CallのCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。
2. コマンド・プロンプトを開きます。
3. x:¥viewonly.os2¥install.exe (x:は、実際にメディアを挿入したドライブを指しています。)と入力しEnterを押してください。
4. 27ページ「OS/2 Warp にインストールする」のステップ3以降を参照してください。

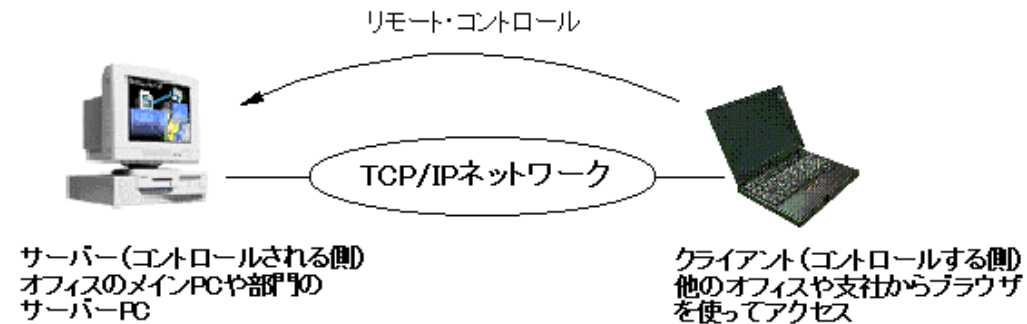
インストールが完了すると「Desktop On-Call リモート・ブラウジ^ング」というアイコンがDesktop On-Callフォルダーに登録されます。

<p>■ リモートブラウジ^ング専用版をインストールした場合インストール後通常版に戻したり設定を変更することはできません。設定を変更したい場合は、一端リモートブラウジ^ング専用版をアンインストールし通常版を再度インストールしてください。</p>
--

第3章 接続

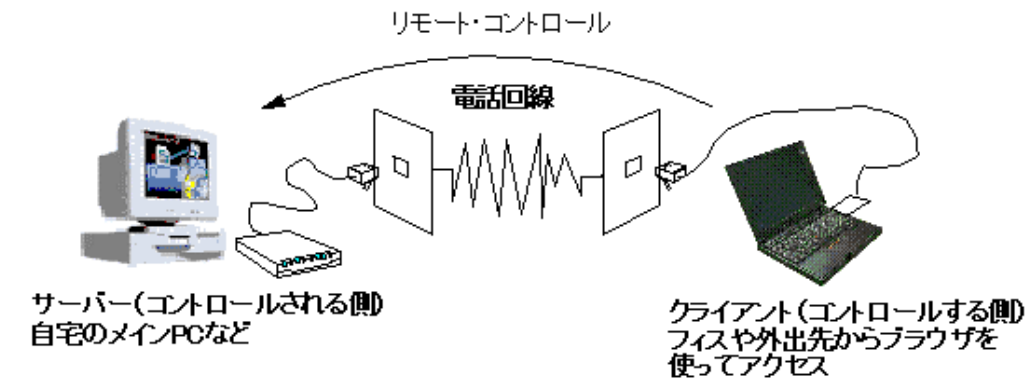
インストールが終わり、いよいよ接続です。大別すると、Desktop On-Callのネットワーク接続形態には、2種類あります。お客様のネットワーク環境に合うと思われる方に進んでください。

1) ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)経由でリモート・コントロールを行う。



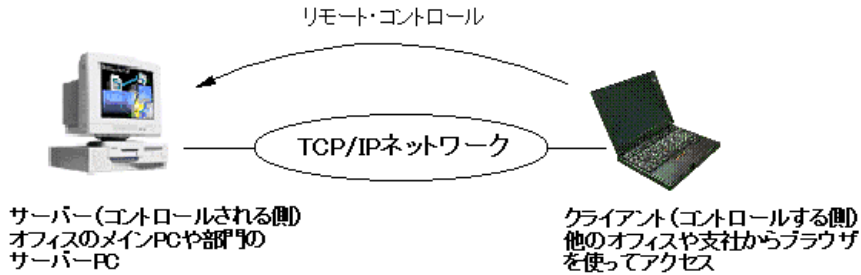
☞ 参照：50ページ 「LAN経由で接続」

2) 電話回線経由でリモート・コントロールを行う。



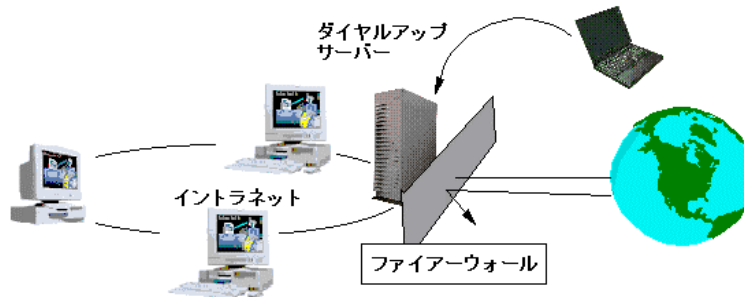
☞ 参照：51ページ 「電話回線経由で接続」

LAN経由で接続

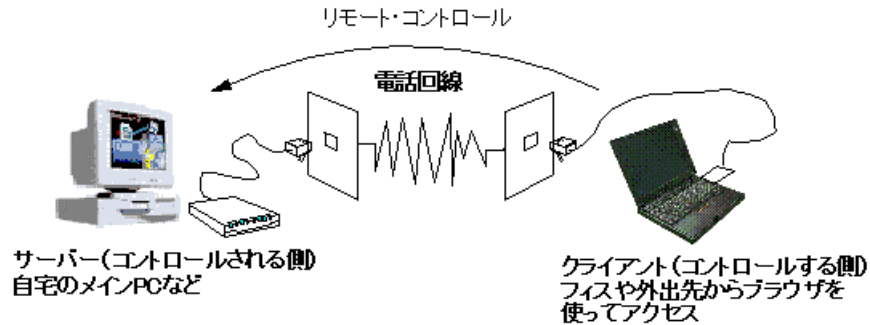


ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)経由でDesktop On-Callを使用される場合は、インストール後、特別な設定は必要ありません。Ping等でTCP/IPレベルの接続ができるかをチェック(74ページ「pingを用いたTCP/IPのチェック」を参照)し、75ページ「ブラウザからの操作方法」に進んでください。

ファイアウォールについて インラネット LANを運営している多くの企業にとって、セキュリティの観点から社内ネットワークと全世界に広がるインターネット間にファイアウォールを設けることは、安全性の観点から欠くことができなくなってきています。ファイアウォールの目的は、外部からの攻撃や侵入から社内ネットワークを守ることです。代表的ファイアウォールの一つ Proxyサーバーは、社内ネットワーク内のクライアントに代わり外部サービスと対話しセキュリティチェックを行いそれを社内ネットワークのクライアントに転送します。一方 Desktop On-Callは、コントロールされる側とコントロールする側を直接接続対話します。これが、Desktop On-Callがファイアウォール経由で使えない大きな理由です。ただ、それでは社外から社内ネットワークにアクセスできないのは不便なので、セキュアされた人だけが、ファイアウォールの内側にアクセスできる「ダイヤルアップサービス」を行っている企業は多あります。



電話回線経由で接続



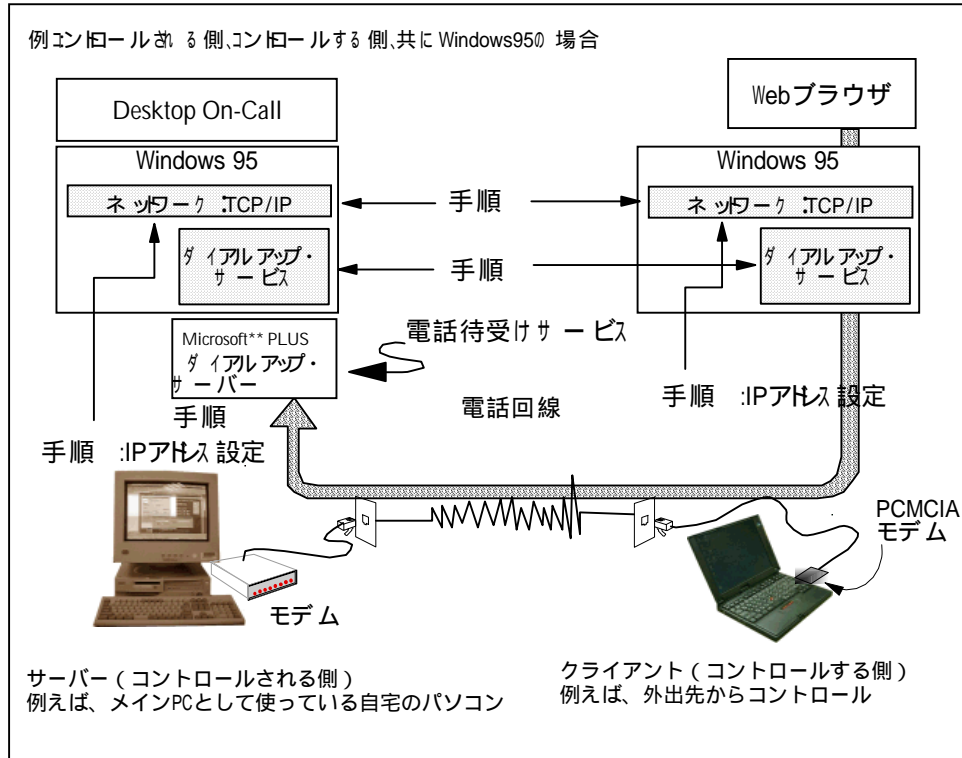
電話回線経由でリモート・コントロールを行うには、TCP/IPネットワーク部分とダイヤルアップネットワーク部分をインストールし、IPアドレスの設定を正確に行わなければなりません。また、ダイヤルアップネットワーク部分の接続は、オペレーティング・システムごとにサポート状況が異なります。

本ユーザーズ・ガイドでは、以下の組み合わせについて説明します。


- コントロールされる側(サーバー)がWindows 95/98の場合
コントロールする側：Windows 95/98の場合
☞ 52ページ
- コントロールされる側(サーバー)がWindows NT 4.0の場合
コントロールする側：Windows NT 4.0の場合
コントロールする側：Windows 95/98の場合
☞ 62ページ
- コントロールされる側(サーバー)がOS/2 Warpの場合
コントロールする側：Windows 95/98の場合
☞ 52ページ
コントロールする側：OS/2 Warpの場合
☞ 69ページ

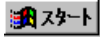


今まで、インターネットなどアクセスしたことのなかったPCでは、ネットワーク機能のセットアップが必要です。ネットワークの全体的構成を理解していただくため、まず、Windows 95の場合を例にとって説明をすすめますので、他のオペレーティング・システムをコントロールされる側(サーバー)として使用される場合も、Windows 95の場合を一読された上、各オペレーティング・システムの説明に進んでください。

コントロールされる側がWindows 95の場合



上図に沿って手順 ~ を説明します。

手順 : サーバー(コントロールされる側)、クライアント(コントロールする側)にネットワーク環境が既にセットアップされているか調べます。デスクトップ上にネットワークコンピュータのアイコン  があるか調べてください。もしない場合は、Microsoft® Windows® 95 ファーストステップガイド 62ページ 「ネットワークをできるようにコンピュータをセットアップする」を参照してネットワークをできるようにセットアップしてください。

手順 :  スタート - 「プログラム」 - 「アクセサリ」のメニューの中に  ダイヤルアップ・ネットワーク があるか調べてください。もしない場合は、 54ページ 「Windows 95/98 ダイヤルアップ・ネットワークのインストール」を参照して、ダイヤルアップ ネットワークをできるようにセットアップしてください。

手順 :ダイヤルアップ サーバーのセットアップを 56ページ「Microsoft® PLUS ダイヤルアップ サーバーをインストールする」を参照してセットアップしてください。


手順 :サーバー（コントロールされる側）のIPアドレスを 58ページ「サーバー（コントロールされる側）IPアドレスの指定（Windows 95/98）」を参照してセットアップしてください。


手順 :クライアント（コントロールする側）のIPアドレスを 59ページ「クライアント（コントロールする側）IPアドレスの指定（Windows 95/98）」を参照してセットアップしてください。

さて、これでネットワークの構築と、IPアドレスの設定が完了しました。TCP/IPレベルで接続できるか、 74ページ「pingを用いたTCP/IPのチェック」を参照して確認してみましょう。

- Desktop On-Callは、TCP/IP(Transmission Control Protocol / Internet Protocol)というプロトコルを使いリモートコントロールを行うソフトウェアです。TCP/IPレベルで接続できないと Desktop On-Callとしては何もできないので TCP/IPレベルで接続されているかチェックするのは大切です。
- TCP/IPとは、イーサネット、トークンリング、ISDNなどいわゆる物理層を意味しているわけではありません。どの物理層上でも、TCP/IPプロトコルがサポートされている場合は、Desktop On-Callで接続することができます。

Windows 95/98 ダイアルアップ・ネットワークのインストール

 を選択し、「プログラム(P)」を選択し、「アクセサリ」を選択してみてください。「ダイアルアップ ネットワーク」がありますか？ ない場合は、インストールが必要です。

1.  を選択し、「設定(S)」、「コントロールパネル(C)」を選択してください。
2. 「アプリケーションの追加と削除」を選んでください。
3. 「Windowsファイル」タブをクリックして、「ファイルの種類」リストボックスの中から「通信」を選択してください。

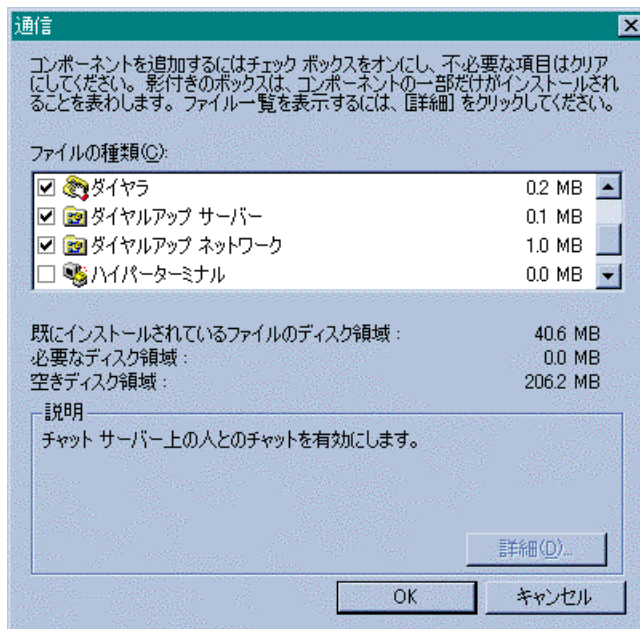


4. 「詳細(D)...」 を選択してください。



Windows 98 の場合は、「ファイルの種類 (C)」の欄中にダイヤルアップサーバーが含まれています。ダイヤルアップサーバーをインストールする場合には、チェックマークをつけてください。

Windows 98の場合



5. ダイアルアップ ネットワークにチェックを付け「OK」を選択してください。
「Windows 95/98 CD-ROMを挿入してください」等の指示がありますのでそれ
に従ってインストールを完了させてください。

Microsoft® PLUS ダイアルアップ サーバーをインストールする

MS Plus for Windows 95 からダイアルアップサーバーをインストールする。

■ Windows 98の場合、ダイアルアップサーバー機能が Windows 98
本体に含まれています。54ページ「Windows 95/98 ダイアルアップ・
ネットワークのインストール」を参照してください。

1. MS PLUS for Windows 95 CD-ROMを準備してください。(別途購入する必要があります)
2. MS PLUS インストールを開始し、「ダイアルアップ ネットワークネットワ
ーク サーバー」を選択してインストールしてください。



3. インストールが完了し、システムを再起動した後「ダイアルアップ ネットワ
ーク」をオープンしてください。
4. 「接続」を選択し、「ダイアルアップ サーバー」を選択してください。



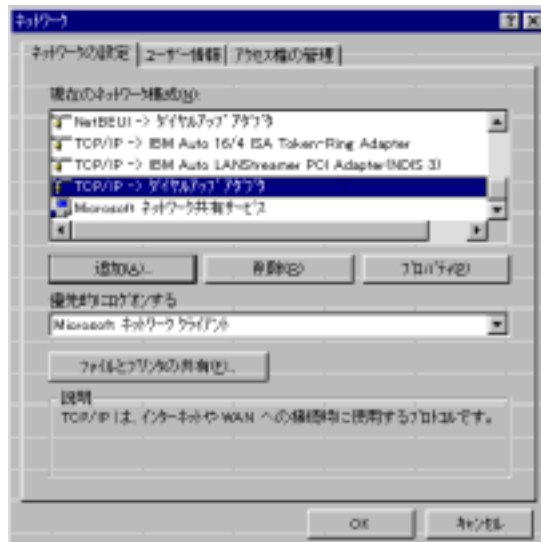
5. 「着信する」を選択し、「サーバーの種類(T)」は、「PPP:Windows 95,Windows NT3.5,インターネット」(Windows98の場合は「PPP:インターネット,Windows NT Server, Windows98」)を選んでください。「OK」を選択してください。



これでダイヤルアップサーバーの設定は完了です。

サーバー（コントロールされる側）IPアドレスの指定（Windows 95/98）

1. スタート - 「設定(S)」 - 「コントロール パネル(C)」を開きます。
2. 「ネットワーク」を開きます。
3. 「TCP/IP->ダイヤルアップアダプタ」を選択し「プロパティ(P)」を選択してください。



4. 以下のIPアドレスを設定するパネルで「IPアドレスを指定(S)」を選んでIPアドレスを設定してください。



クライアント(コントロールする側)IPアドレスの指定(Windows 95/98)

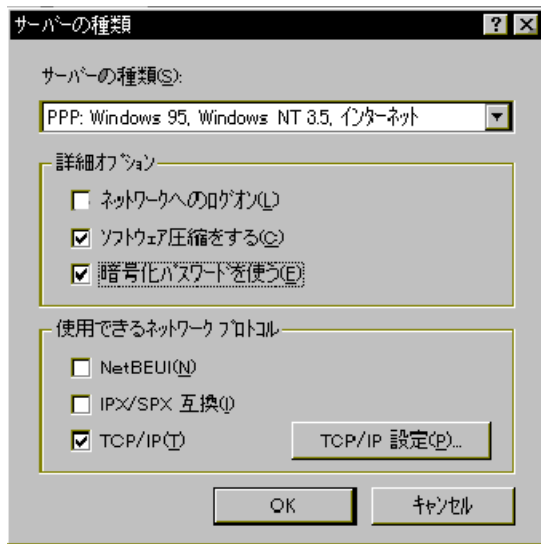
1. スタート - 「プログラム(P)」 - 「アクセサリ」 - 「ダイヤルアップ ネットワーク」を選択してください。
2. 「新しい接続」をクリックし、ウィザードに従ってサーバー接続用のアイコンを作成してください。



3. アイコンの上で右クリックし、作成したアイコンのプロパティを開いてください。「サーバーの種類(T)...」を選択してください。



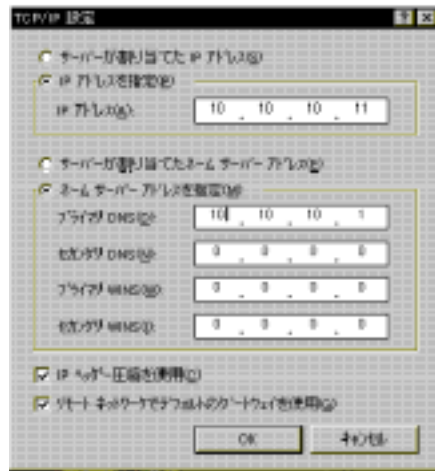
4. 「サーバーの種類(S):」で「PPP: Windows 95, Windows NT 3.5, インターネット」(Windows 98では「PPP: インターネット,Windows NT Server,Windows98」)を選択してください。



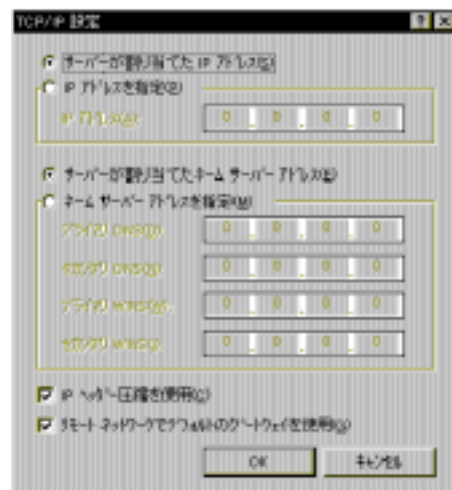
☰ Windows 95/98ではサーバー側の省略時の設定が、「暗号化パスワードを使う(E)」に設定されていますのでクライアント側でも「暗号化パスワードを使う(E)」をチェックしてください。

5. TCP/IP設定

[サーバーがWindows 95/98またはOS/2 Warpのとき] サーバーは自動的にクライアント側のIPアドレスを割り当ててくれないので、以下のように[IPアドレスを指定(P)]をチェックし、サーバーと違うアドレスを入力します。またネームサーバーはないのですが指定しないと動かないので、[ネームサーバーアドレスを指定]を選択し、ダミーとして適当なIPアドレスを入れます。OKを押して完了です。



[サーバーがWindows NTのとき] サーバーは自動的にクライアント側のIPアドレスを割り当ててくれるので、以下のように[サーバーが割り当てたIPアドレス(S)]をチェックします。またネームサーバーは[サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス(E)]を選択します。OKを押して完了です。



コントロールされる側がWindows NT 4.0の場合


Windows 95/98の場合と同様に、電話回線を使ってモデムを介して接続する場合は、TCP/IPネットワークおよびダイヤルアップネットワークをインストールしておく必要があります。ただし、Windows NTの場合は、ダイヤルアップ・サーバーはWindows NT本体には含まれています。

1. ネットワーク・コンピュータのプロパティを開き、TCP/IPがインストールされているか、確認してください。インストールされていない場合は、「追加」を選び、「ネットワーク構成ファイルの追加」のパネルでプロトコルを選び再び「追加」を選択して製造元MicrosoftのTCP/IPをインストールしてください。
2. ☞ 63ページ 「Windows NT 4.0 ダイヤルアップ ネットワークをインストール」を参照してダイヤルアップ ネットワークをインストールしてください。


☞ 63ページ 「

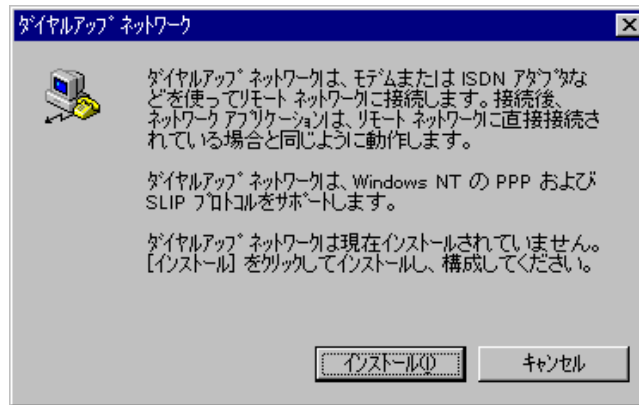
3. ダイヤルアップ着信可に設定する-サーバー側 (Windows NT)」を参照してダイヤルアップ着信可に設定してください
4. ☞ 65ページ 「IPアドレスの設定-サーバー側 (Windows NT)」を参照してIPアドレス (サーバー側) を設定してください。
5. ☞ 66ページ 「ダイヤルアップのユーザー指定-サーバー側 (Windows NT)」を参照してダイヤルアップのユーザー指定を行ってください。
6. ☞ 67ページ 「クライアント(コントロールする側)IPアドレスの指定(Windows 95/98)」を参照してクライアント側のIPアドレスを設定してください。

コントロールする側がWindows 95/98の場合は ☞ 61ページ 「5」の「サーバーがWindows NTのとき」を参照してください。

7.  「プログラム(P)」 - 「管理ツール」 - 「リモートアクセス管理」を選択しリモート・アクセス・サービスを開始してください。


Windows NT 4.0 ダイアルアップ ネットワークをインストール

1.  - 「プログラム(P)」 - 「アクセサリ」 - 「ダイアルアップ ネットワーク」を選択します。
☞ 「ダイアルアップ ネットワーク」インストールのパネルが表示されます。



2. Windows NT 4.0のCD-ROMを入れて「インストール」を選択してください。
3. モデムがインストールされていない場合は、モデムのインストールが開始されますのでここでモデムを設定してください。
4. 再起動するとダイアルアップ ネットワークが使用できる状態になります。

ダイアルアップ着信可に設定する-サーバー側 (Windows NT)

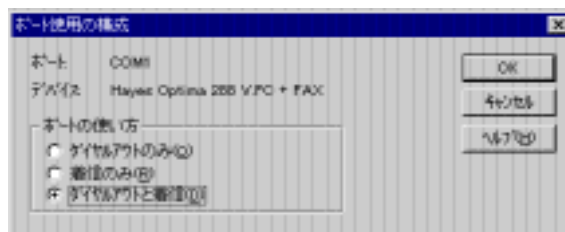
1.  - 「設定(S)」 - 「コントロール パネル(C)」を選択し「ネットワーク」をオープンしてください。
2. 「サービス」タグをクリックし、「リモートアクセス サービス」を選択して、「プロパティ(P)...」を選択してください。



3. 「構成(C)...」を選択します。



4. 「着信のみ」又は「ダイヤルアウトと着信」を選択し「OK」を押してください。

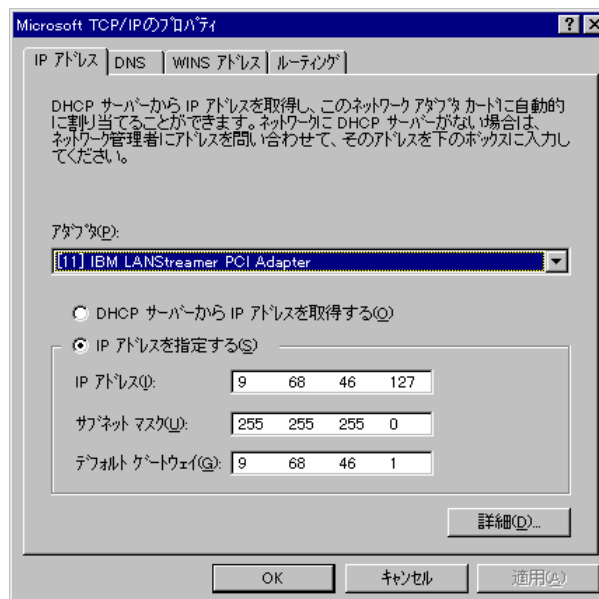


IPアドレスの設定-サーバー側 (Windows NT)

1. スタート - 「設定(S)」 - 「コントロールパネル(C)」を開きます。
2. 「ネットワーク」を開きます。すると以下のパネルが表示されます。

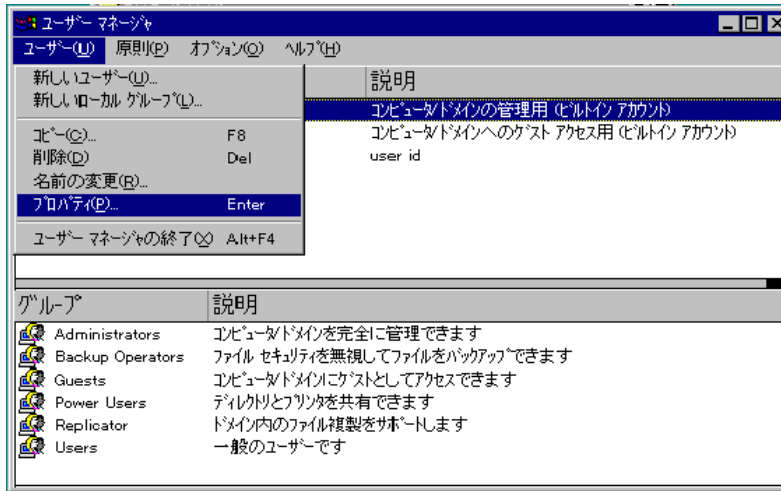


3. 「プロパティ(P)...」を選択してください。以下のIPアドレスを設定するパネルで「IPアドレスを指定する(S)」を選んでIPアドレスを入力してください。

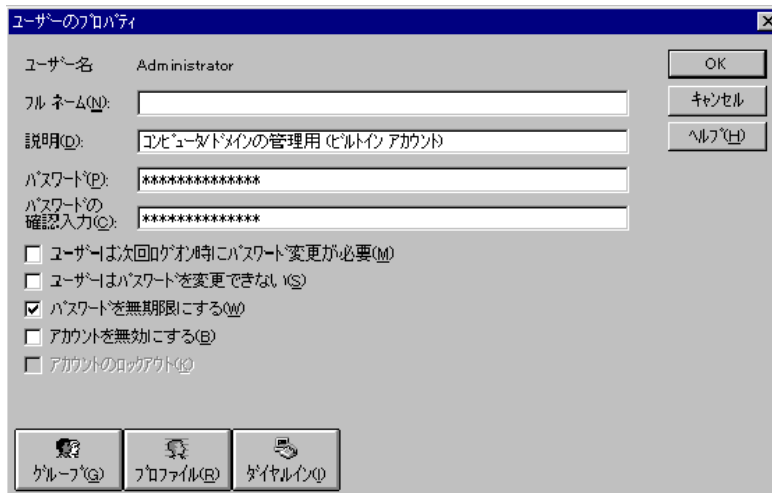


ダイヤルアップのユーザー指定-サーバー側 (Windows NT)

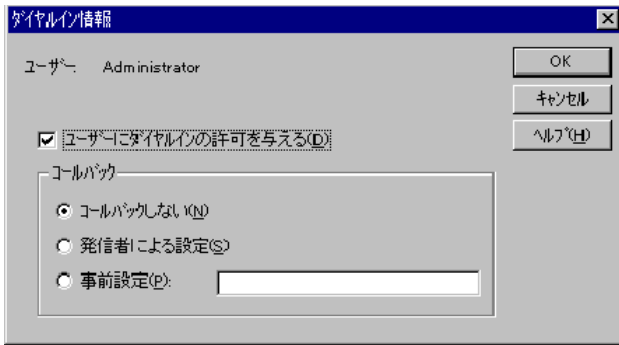
1. スタート - 「プログラム」 - 「管理ツール(共通)」 - 「ユーザーマネージャ」を選択してください。ダイヤルアップでアクセスするユーザーを選び、プロパティを選択してください。



2. 「ダイヤルイン(I)」 ボタンを押してください。



3. 「ユーザーにダイヤルインの許可を与える」にチェックマークを付けてください。



4. 「OK」を押してください。

クライアント側(コントロールする側)のIPアドレス指定(Windows NT)

この設定は、サーバー側のWindows NTでおこないます。

1. スタート - 「設定」 - 「コントロールパネル」を開きます。
2. 「ネットワーク」を開きます。
3. 「サービス」タグをクリックし、「リモートアクセス サービス」を選択して、「プロパティ(P)...」を選択してください。



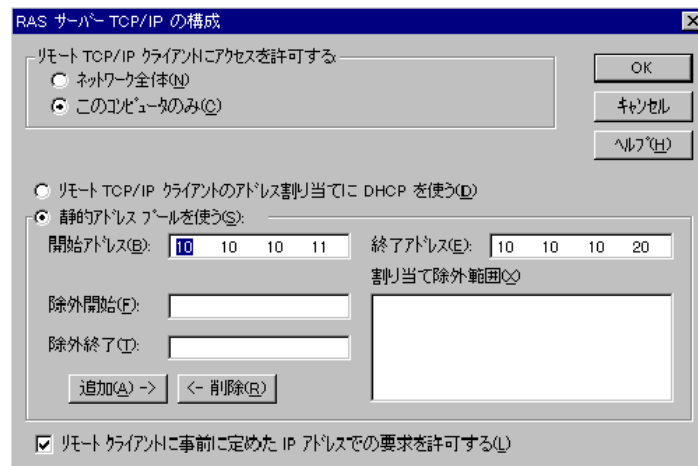
4. 「ネットワーク(N)...」ボタンを押してください。
☐ ネットワークの構成のパネルが表示されます。



5. 「ダイヤルアウトプロトコル」は、TCP/IP、「サーバーの設定」の「次のリモートクライアントを許可する」、の中からTCP/IPにチェックマークを付け、「構成(C)...」を押してください。

6. RASサーバーTCP/IPの構成で以下の要領で設定してください。

「リモートTCP/IPクライアントにアクセス許可する」は、「このコンピュータのみ」を選択する。「静的アドレスプールを使う」を選択する。「開始アドレス」「終了アドレス」をこのサーバーとかち合わないよう設定する。



7. 「OK」を押して終了してください。

コントロールされる側がOS/2 Warpの場合

本格的なPPPサーバーとしてダイヤルアップ・サーバーを構築するには、Warp Serverが必要ですが、1対1接続でよい場合は、OS/2 Warpで、PPPでのPeer to Peer接続が利用できます。ここでは、PPPでのPeer to Peer接続方法を説明します。

OS/2 Warpの場合は、TCP/IPネットワークがインストールされていれば、「他インターネット・プロバイダーへのダイヤル」で電話回線を使ってモデムを介して接続することができます。

1. 「プログラム」フォルダを開いてください。TCP/IPがインストールされていれば「インターネット(モデム)」アイコンがあります。「インターネット(モデム)」を開くと「他のインターネット・プロバイダーへのダイヤル」をいうオブジェクトがあります。ダブルクリックしてオープンして下さい。



2. 70ページ「OS/2 Warp「他のインターネット・プロバイダーへのダイヤル」設定」を参照してサーバー側/クライアント側を設定してください。
3. ダイヤルを選択し、接続してください。



4. TCP/IPレベルで接続できるか、74ページ「pingを用いたTCP/IPのチェック」を参照して確認してみましょう。

OS/2 Warp 「他のインターネット・プロバイダーへのダイヤル」設定

コントロールされる側（サーバー）、コントロールする側（クライアント）とも同様の設定をします。

■ コントロールする側（クライアント）設定で注意が必要な項目は注意事項として示す。

1. 「項目の追加」を選択します。
 ☞ 「入力項目の修正」のパネルが表示されます。

入力項目の修正

*名前: MyPPP
 説明: MyPPP SRV
 ログインID: USERID
 パスワード: 必須
 電話番号: 12-3456
 ログインワークス: NONE

接続タイプ
 SUP PPP

「非活動タイムアウト」オプション
 自動ハングアップまで待つ時間(分): 15

ヘルプ(H) (*必須入力項目)

ページ4の1

2. *名前、説明、ログインID、(パスワード)、電話番号(サーバー側の電話番号を入力)を入力し、接続タイプ PPPを選択します。
3. 接続情報タブをクリックしてください。

入力項目の修正

*IPアドレス: 10.10.10.10
 *宛先IPアドレス: 10.10.10.11
 ネットマスク: 255.0.0.0
 *MRUサイズ: 1500

VJ圧縮 一次インターフェース

ドメイン・ネーム・サーバー: 10.10.10.10
 ホスト名:
 *ドメイン名: DTCC.V2.IBM

ヘルプ(H) (*必須入力項目)

ページ4の2

4. (サーバー側) IPアドレス、宛先IPアドレス、ネットマスクを入力します。

*MRUサイズは、1500のままにしておきます。VJ圧縮を選択して下さい。
ドメイン・ネーム・サーバーは、サーバーのIPアドレスを入力して下さい。

■ クライアント側の設定では、サーバー側で設定した IPアドレス、宛先 IPアドレスが逆になります。

5. サーバー情報のパネルでは特に入力しなければならない項目はありません。ブランクのままでもかまいません。

入力項目の修正

デフォルト・サーバー/ホスト

ニュースサーバー:

Gopherサーバー:

WWWサーバー:

メール・サーバー情報

メール・ゲートウェイ:

POPメールサーバー:

応答ドメイン:

応答(メール)ID:

POPログインID:

POPパスワード:

ヘルプ(H)

ページ4の3

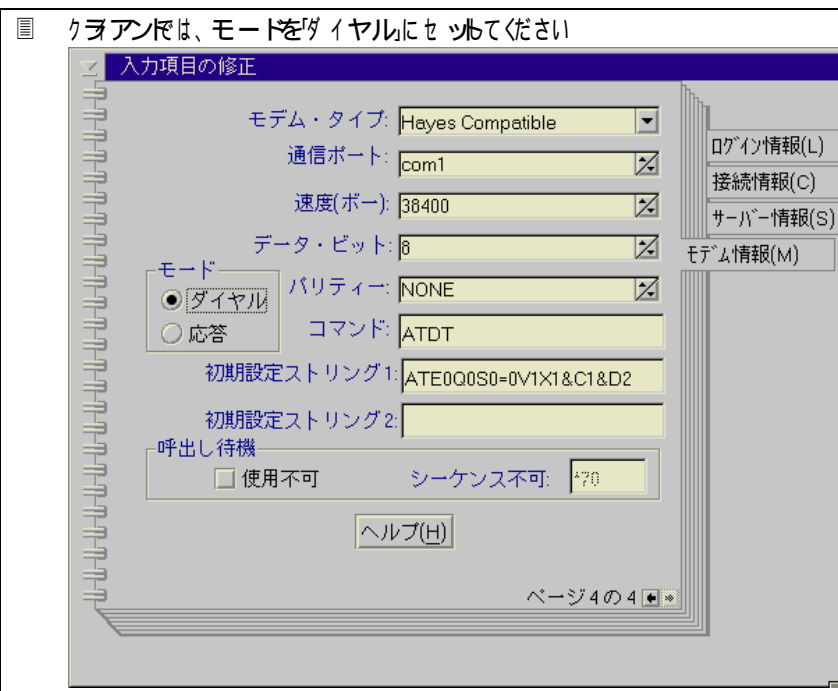
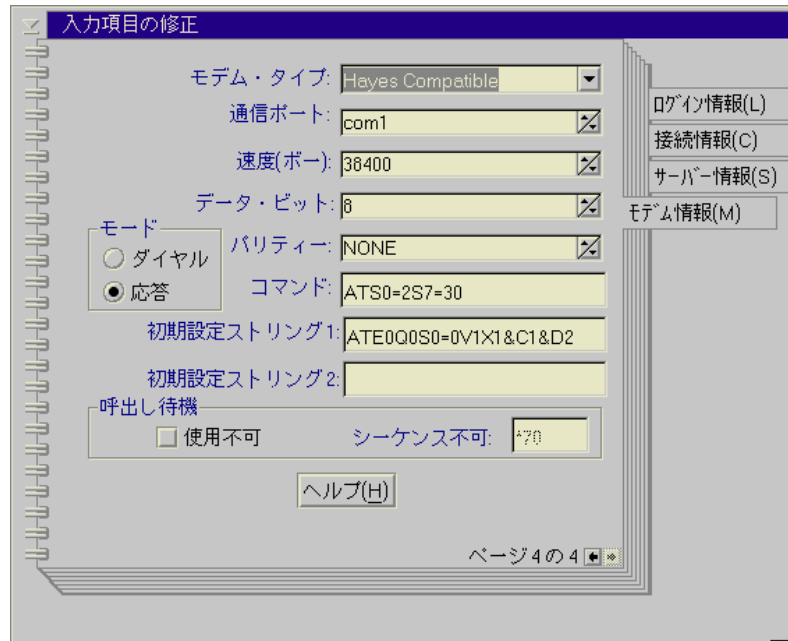
ログイン情報(L)

接続情報(C)

サーバー情報(S)

モデム情報(M)

6. モデム情報のパネルでは、モデム・タイプ、通信ポート、速度を入力して下さい。サーバー側では、モードを「応答」にセットして下さい。



pingを用いたTCP/IPのチェック

OS/2、Unix または Windows 95/98 などではコマンド・プロンプトで ping というコマンドを使用してネットワーク上で正しく TCP/IP での接続ができるかを調べることができます。

■ 正確には、pingは、ICMPプロトコルを使って IP間の ネットワーク 接続を
チェックしています。

Desktop On-Call で接続するクライアントまたはサーバーのいずれかのデスクトップ上でコマンド・プロンプトを開き、相手方の IP アドレス を ping コマンドで指定します。

下の例では、接続する相手方の IP アドレス は 192.168.1.10 です。

ping 192.168.1.10と入れたコマンドに対して、Reply from 192.168.1.10と相手方のシステムが応答し、TCP/IP で正しく接続できる状態であることが分かります。

```
C:\WINDOWS>ping 192.168.1.10

Pinging 192.168.1.10 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time<10ms TTL=32
Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time=1ms TTL=32

C:\WINDOWS>
```

下の例では、ping 192.168.1.30と入れたコマンドに対して、Request timed out.というメッセージが帰ってきています。

```
C:\WINDOWS>ping 192.168.1.30

Pinging 192.168.1.30 with 32 bytes of data:

Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.


C:\WINDOWS>
```

これは、お互いが正しくTCP/IP で接続できる状態ではないことを示しています。

この場合には、お使いのシステムのマニュアルなどを参照して、TCP/IP ネットワークの設定を変更し、上の例のように ping コマンドで接続が確認できるようにならない限り、Desktop On-Call は機能しません。


第4章 機能と設定

ブラウザからの操作方法

1. コントロールされる側（サーバー）のPCで、 - 「プログラム」 - 「Desktop On-Call」 - 「Desktop On-Call」を選択すると以下のパネルが表示されます。「Desktop On-Callサーバーの状況」が「待機中」であることを確認してください。



2. コントロールする側（クライアント側）のPCで、Javaアプレットが動作するブラウザを起動させてください。
3. Desktop On-Call がインストールされているマシンのURLアドレスを入力してください。
4. ユーザーIDとパスワードを要求するパネルが表示されます。（ユーザーIDとパスワードを要求しないに設定している場合は、表示されません。）

5. ユーザーIDとパスワードを入力してください。
- ☐ ブラウザ内にデスクトップイメージが現れます。
6. まず  スタート をクリックしてみてください。そしてポインターをメニューへ移動させると図のように通常、Windowsを使っている通り操作できます。



☐ マウス右ボタンも対応しています。

エミュレーション・キーとファンクション・アイコン

エミュレーション・キーとは、ブラウザ内でJavaアプレットとしてサポートできないキーをアイコンとしてサポートしたキーです。ブラウザ下方に表示されます。

106キーボード



NEC PC-98キーボード



英語版(101キーボード)



エミュレーション・キー

	コントロール・キー
	前面(Alt)キー
	漢字キー
	半角/全角キー
	変換キー
	無変換キー
	挿入(Insert)キー



かなキー (NEC PC-98 キーボード)

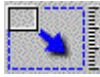


Nferキー (NEC PC-98 キーボード)

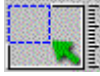


Xferキー (NEC PC-98 キーボード)

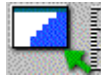
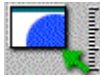
ファンクション・アイコン



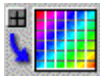
拡大



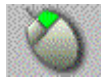
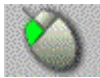
縮小



縮小時のアンチエイリアス オン/オフ(トグル)



強制256色転送



マウス右/左ボタン切り替え (マウスボタンが一つしかないマウスで右マウス・ボタンを使用する場合にこのボタンで切り替えることができます。)



切断



ファイル転送

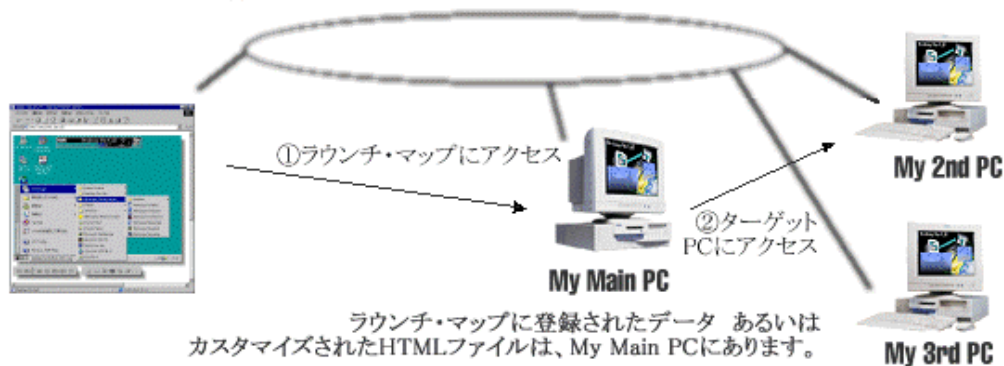
ラUNCH・マップ機能

ラUNCH・マップ機能は、複数台のDesktop On-CallがインストールされているPCをグループ管理する場合に便利な機能です。

複数台のPCを、Desktop On-Callを使ってリモート・コントロールする場合、アクセスするたびにURLアドレスを入力することは、必ずしも便利とは言えません。お気に入り(Bookmarkなど)リストに追加しておくことで簡単にアクセスできますが、お気に入りリストは画面からあふれるほどたくさん登録してしまっていないでしょうか。

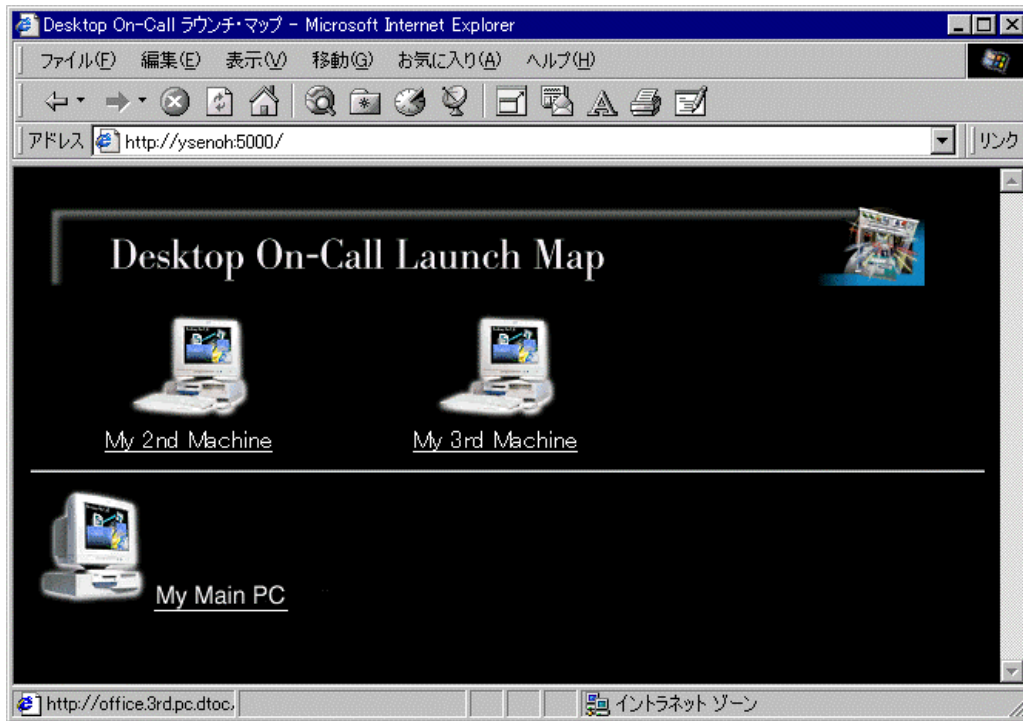
あるいは、いつも使っているブラウザからでなく、例えば、出張へ行って、誰かのブラウザを借りたときはどうでしょう。アクセスするすべてのPCのURLアドレスを正確に覚えていなければなりません。そんなとき、ラUNCH・マップ機能を利用してアクセスするPCを登録しておくことで便利です。

ラUNCH・マップ構成




ここで例を示します。あなたは3台のPCにDesktop On-Callをインストールし、リモート・コントロールして管理しています。いつも、最初にアクセスするPCは「My Main PC」です。ラUNCH・マップは、「My Main PC」の中に存在しています。したがって、「My Main PC」を最初にアクセスすれば、ラUNCH・マップが表示されます。

ブラウザから「My Main PC」のURLアドレスを入力すると下のようなページが表示されます。



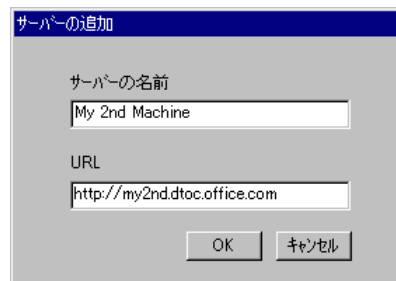
アクセスしたいPC上でクリックしてください。これなら「My Main PC」に登録しておけば、他のPCのURLを覚えておく必要はありません。

ラUNCH・MAPへのPCの登録方法

1. コントロールされる側(サーバー)のPCで、 - 「プログラム」 - 「Desktop On-Call」 - 「Desktop On-Call」を選択するとDesktop On-Callのパネルが表示されます。
2. 「プロパティ」を選択してください。
3. 「サーバー管理」タブを選択してください。



4. 「サーバーの動作」の「ラUNCH・MAP」を選択してください。
5. 「サーバーの追加」を選択してください。



6. サーバーの名前、URLを入力し「OK」を押してください。これで登録は完了です。

ブラウザから、最初にアクセスしたPC (この例ではMy Main PC)がブラウザの下方に以下のPCの絵で表現されます。




追加登録されたPCはブラウザ上方に以下のPCの絵で表現されます。



サンプル・ラUNCH・マップHTML

実際のオフィスや教室などにより適合したHTMLファイルを用意し、Desktop On-CallのラUNCH・マップとして用いると、ターゲットとするPCを実環境に近い形で見つけ出しリモート・コントロールすることができます。

Desktop On-Call Version 2.5には、サンプルのラUNCH・マップHTMLファイルが用意されています。以下の手順で実際にサンプルのラUNCH・マップHTMLファイルを試してみることができます。

1. コントロールされる側(サーバー)のPCで、 スタート - 「プログラム」 - 「Desktop On-Call」 - 「Desktop On-Call」を選択すると「Desktop On-Callのプロパティ」のパネルが表示されます。
2. 「プロパティ」を選択してください。
3. 「サーバー管理」タブを選択してください。
4. 「既存のHTMLの利用」を選択してください。

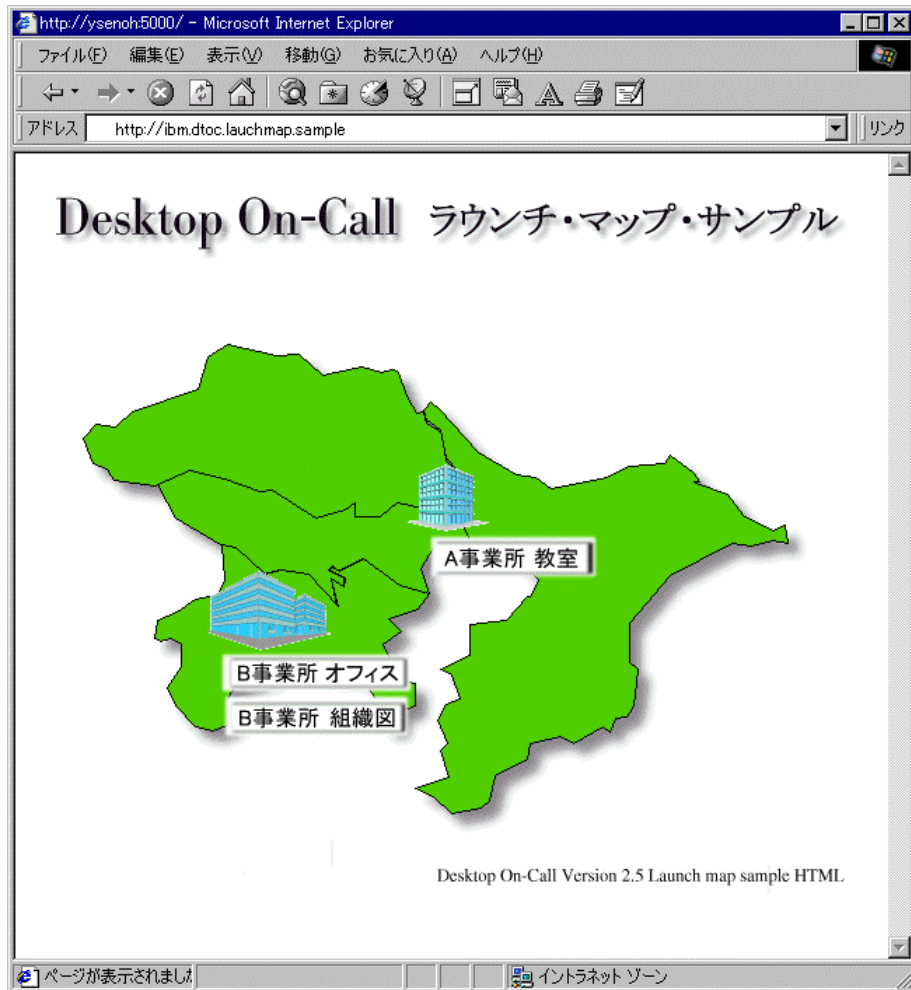


5. 「指定」を選択してください。
6. 「ファイル名」の入力フィールドに、
samples¥mapsamp.htm と入力して「OK」を押してください。



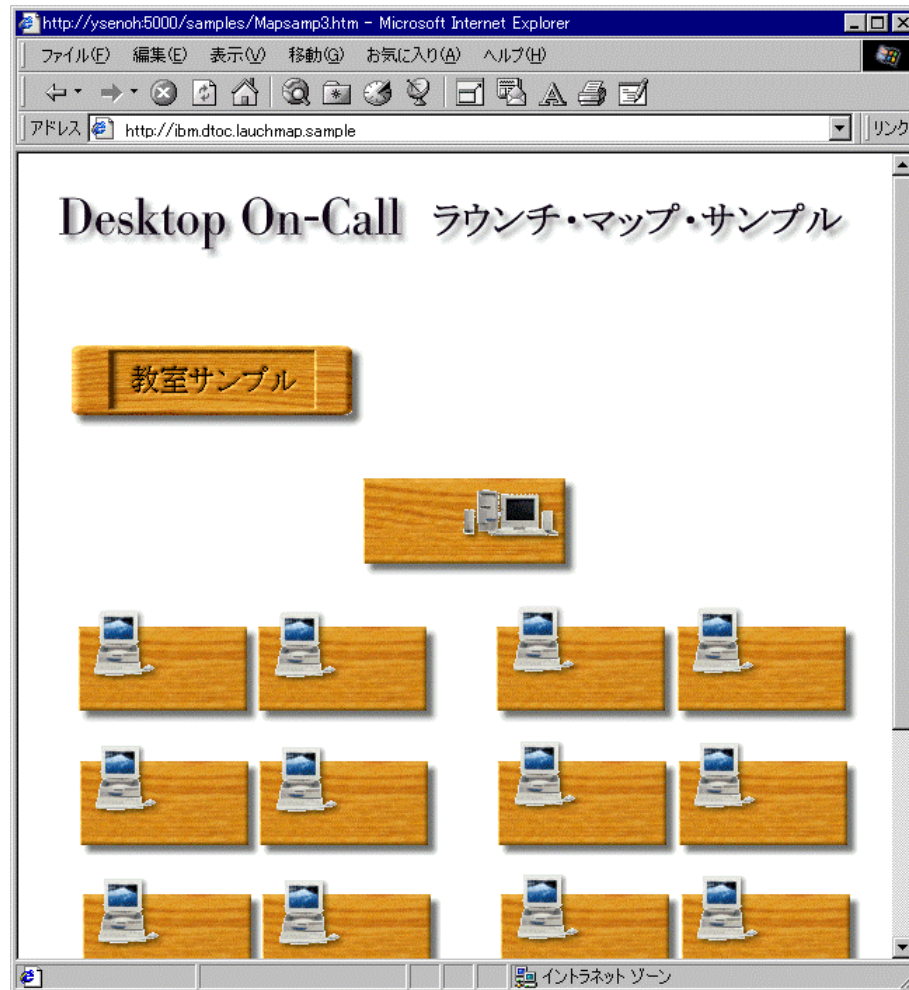
7. 「Desktop On-Callのプロパティ」パネルの「OK」あるいは、「適用」を選択してください。

サーバー側での設定はこれで完了です。ブラウザからアクセスしてください。
次のページが表示されます。



このサンプルでは、地図にレイアウトされたサイトの教室やオフィスのページを開き、そこに配置されているPCにアクセスし、リモート・コントロールを行うというシナリオになっています。

「A事業所 教室」をクリックすると、教室サンプルのページが表示されます。



PC上にマウスポインターを置いてクリックしてください。アプレットがダウンロードされ、ユーザーID,パスワードを入力するとリモート・コントロール画面になります。

(この例では、すべてのPCの絵は、そのPC自体(この例ではMy Main PC)にリンクされています。)

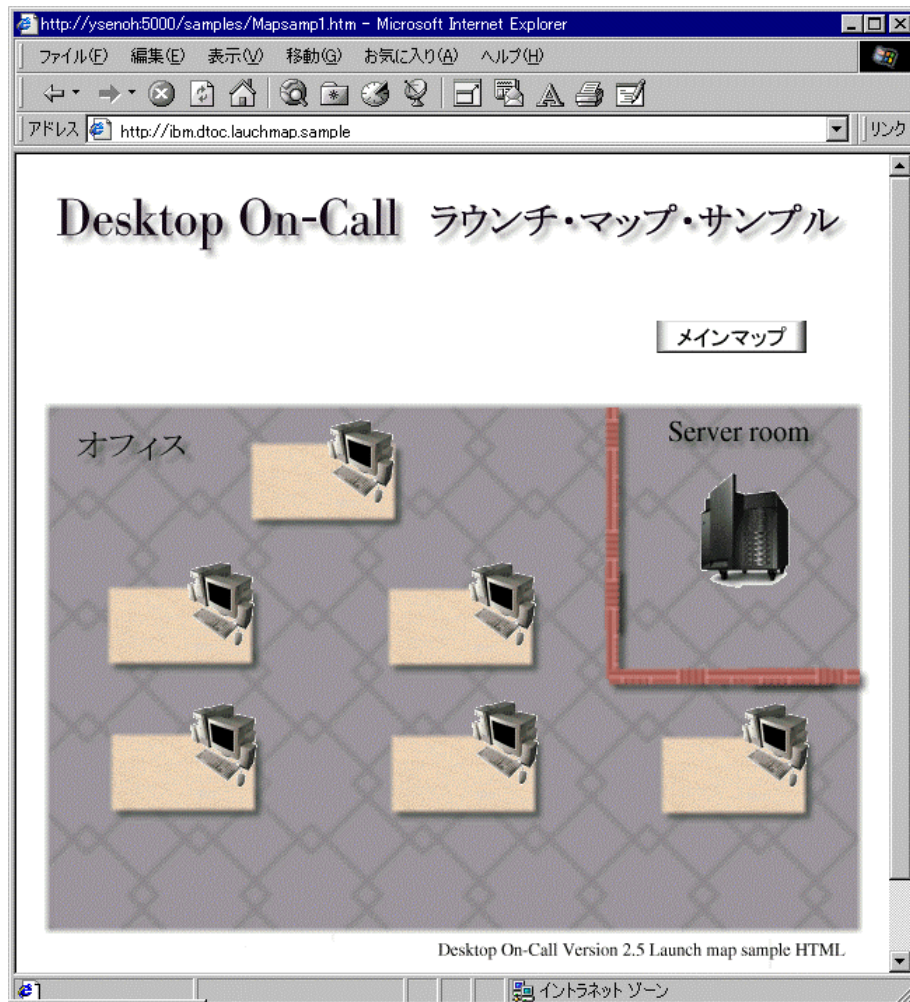
この教室サンプルの下方に「メインマップ」ボタンがありますので、スクロールし、「メインマップ」を選択し最初の地図のページに戻ってください。

次に、「B事業所オフィス」をクリックしてください。」

これは、オフィスの例です。

各スタッフのPCや、サーバー室にあるサーバーPCにアクセスできます。

(この例でも、すべてのPCの絵は、そのPC自体(この例ではMy Main PC)にリンクされています。)

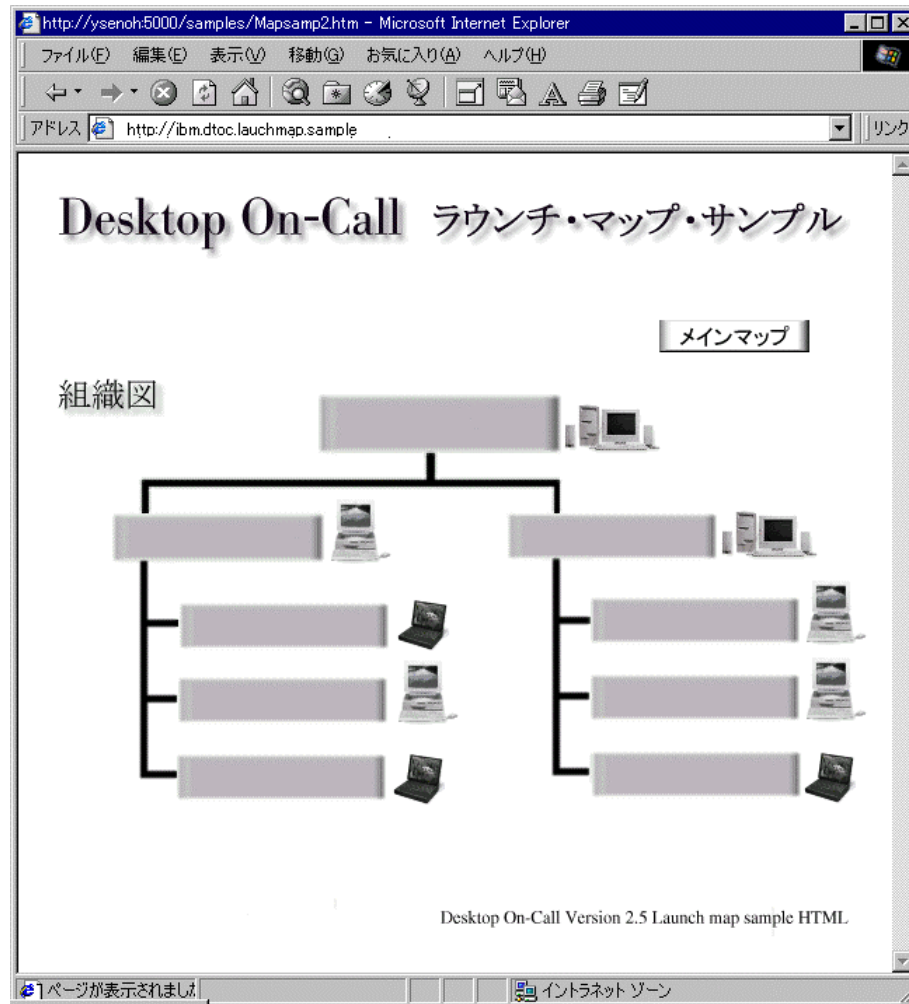


「メインマップ」を選択し最初の地図のページに戻ってください。

次に、「B事業所 組織図」をクリックしてください。」

これは、組織図を使った例です。

(この例でも、すべてのPCの絵は、そのPC自体(この例ではMy Main PC)にリンクされています。)



カスタマイズしたHTMLファイルをラウンチ・マップとして用いるとお客様の実環境に合致したリモート・コントロール環境が臨機応変に構築できることがご理解いただけたと思います。

このサンプルHTMLのリンク先を別のアドレスに割り当てるには、HTMLソースコードの以下の部分を書き換えてください。


```
<AREA shape="rect" coords="2, 1, 3, 1" href="/index.htm" >
-->"2ndpc.dtoc.vvv.com"
<AREA shape="rect" coords="3, 2, 1, 2" href="/index.htm" >
-->"3ndpc.dtoc.vvv.com"
<AREA shape="rect" coords="1, 2, 2, 2" href="/index.htm" >
-->"4ndpc.dtoc.vvv.com"
```

/index.htmlは、そのPC自体（この例ではMy Main PC）を意味しています。これを、例えば、2ndpc.dtoc.vvv.comなど、実際のURLアドレスに書き直してください。

新規作成したHTMLをラUNCH・マップに割り当てる

新規にお客様の実環境に適合したHTMLを作成するには、ホームページ作成ツール「ホームページ・ビルダー」などを使って作成してください。

以下の手順にしたがって、ラUNCH・マップ・HTMLファイルとして割り当ててください。

1. 作成した全てのファイルを、Desktop On-Callがインストールしてあるディレクトリー（通常は、C:\Program files\IBM\Desktop On-Call）の下にコピーしてください。
2. コントロールされる側(サーバー)のPCで、 - 「プログラム」 - 「Desktop On-Call」 - 「Desktop On-Call」を選択すると「Desktop On-Callのプロパティ」のパネルが表示されます。
3. 「プロパティ」を選択してください。
4. 「サーバー管理」タブを選択してください。
5. 「既存のHTMLの利用」を選択してください。



6. 「指定」を選択してください。
7. 「ファイル名」の入力フィールドに、作成したHTMLファイル名を入力して「OK」を押してください。
8. 「Desktop On-Callのプロパティ」パネルの「OK」あるいは、「適用」を選択してください。

これで完了です。

クライアントから入力可能なイベント

マウス

- 全てのマウスイベント。

☐ Altキーを押しながらのマウスイベントはサポートされません。

キーボード

直接入力できるキー

- アルファベット(AからZ)(aからz)
- 数字(0から9)
- シンボル(!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{|}~)
- Function キー (F1 ~ F12、あるいはCtrl+1 ~ 0,-,^を使用した代用入力)
- スペシャルキー (Enter, BackSpace, Delete, Home, End, PageUp, PageDown, Left, Right, Up, Down, Esc, Tab, Space)

エミュレーション・キーによって入力できるキー

- Alt, Ctrl, Insert, 変換, 無変換, 半角/全角, 漢字,
- XFER, NFER, GRAPH, カナ(サーバーがPC98の時のみ)

出力可能な画面モード

ディスプレイ

以下のディスプレイモードで動作しているサーバー（コントロールされる側）をリモート・コントロールできます。

- 640x480, 800x600, 1024x768, 1280x1024, 1600x1200画素
- 16色, 256色, 32K色, 64K色, 16M色

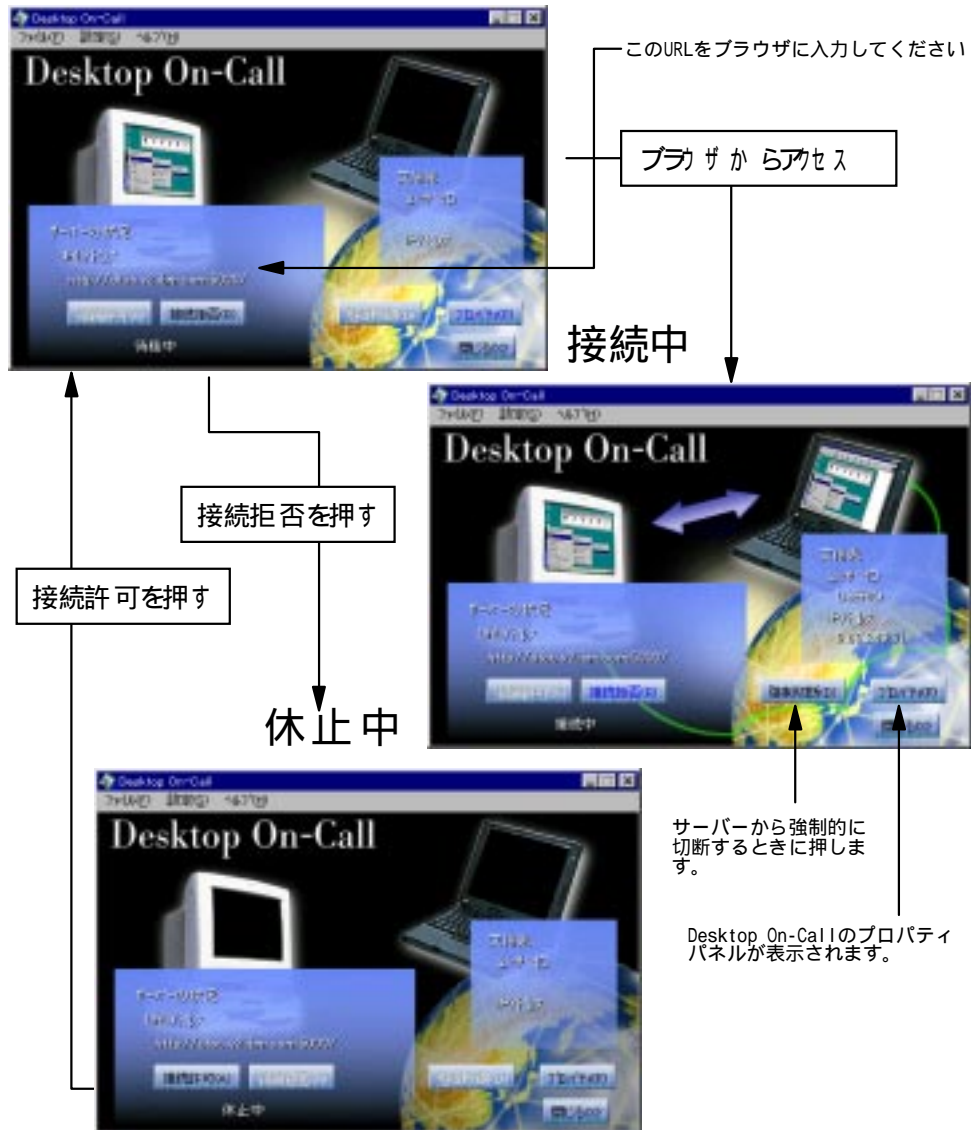
上記のモードをカラー/モノクロ4階調に色調整してクライアント側に送られます。

☐ カラーの場合は、16色が転送されます。256色情報を追加転送するには、強制256色転送アイコンを押すか、プロパティパネル「アトリ」時に256色にする」を選択してください。

「Desktop On-Call」ウィンドウ

Desktop On-Call のメイン・パネルです。3つの状態（休止中、待機中、接続中）を表しています。

待機中

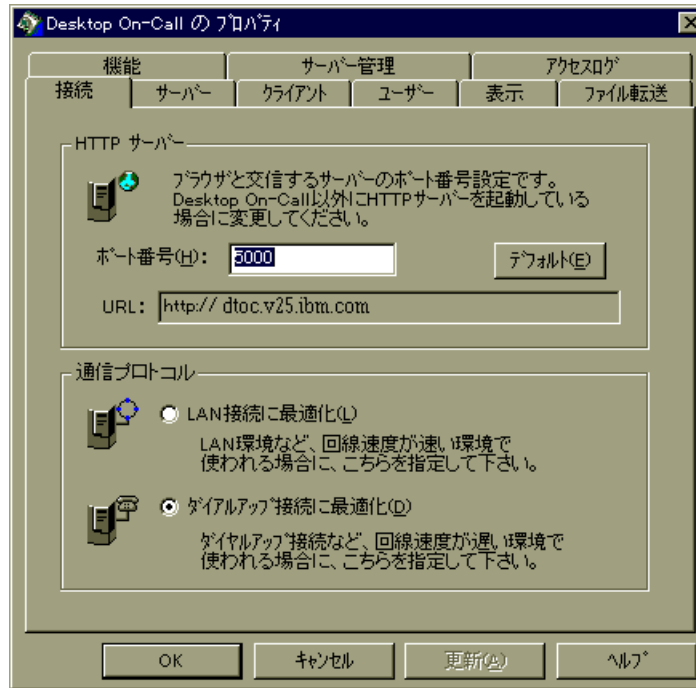


Desktop On-Callプロパティ・パネル

「接続」パネル

ポート番号

Desktop On-CallをインストールするとPCは、URL : で示されるアドレスのHTTPサーバーとなります。通常、ポート番号は80です。ただし、そのPCが、ホームページ・サーバーになっている場合は、ポート番号は80が重複してしまいます。これを避けるためポート番号を、5000～65535のうちいずれかの番号を指定してください。



通信プロトコルの最適化

省略値は、「ダイヤルアップ接続に最適化」になっています。回線速度が速いネットワークでは「LAN接続に最適化」を選択してください。

「サーバー」パネル

自動始動

「自動始動」を選択すると、コンピュータ起動時に、Windowsなどのログオン・パネルが表示される前にDesktop On-Callが始動します。リモートからPCを再起動させることが可能となります。




自動壁紙解除

「自動壁紙解除」を選択するとリモート・コントロール時のみ壁紙が解除されます。

この機能は Windows のみでサポートされます。Active Desktopがオンの場合には機能しません。

接続表示省略時最小化

「接続表示省略時最小化」をオンにすると、が最小化された状態でリモート・コントロールできます。

リモートブッキング専用版では「接続表示省略時最小化」オンになっています。

「クライアント」パネル

主に使用するブラウザ

ブラウザによって、色が不自然なことがあります。その場合、主に使用するブラウザのリストから適合すると思われるものを選んでみてください。



アクセスを許すIPアドレスを設定

「IPアドレスを以下で始まるものに制限する」を選択し、アクセスを許すIPアドレスを「追加」することにより、その他のIPアドレスからのアクセスを制限できます。

例1：アクセスを許すIPアドレスを、10.10.10.1、10.10.10.2、10.10.10.3の3つに制限する。
3つの全てのIPアドレスを入力し「追加」ボタンを選択してリストに追加してください。

例2：10.10.10.1～10.10.10.255のIPアドレスのみアクセスを許す。
10.10.10と入力し「追加」ボタンを選択してリストに追加してください。

「ユーザー」パネル

ユーザーIDによるアクセス制御


「セキュリティチェックする」を選んだ場合、必ず1つ以上のユーザーIDを登録してください。

■ Desktop On-Call Version 2.5では、ノードごとの独自方式で暗号化されています。

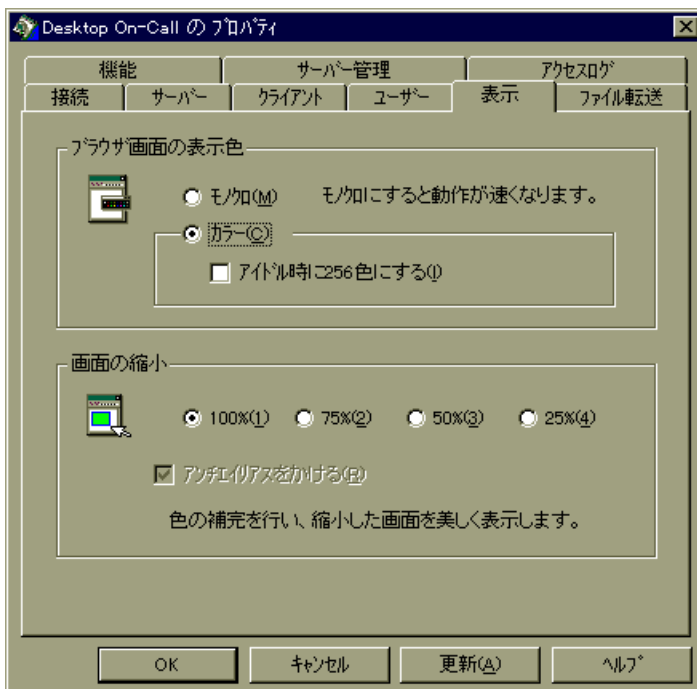


「表示」パネル

ブラウザ画面の表示色

「カラー」が選択されていると、画面の色は16色に減色されてブラウザに転送されます。を選択すると、256色情報が追加転送されます。

「アイドル時に256色にする」を選択すると、マウス入力、キー入力、画面変化が検出されないアイドル状態になると、256色情報が追加転送されます。





画面の縮小

コントロールする側の画面の方が狭い場合、画面を縮小すると（ブラウザ下方の




を選択すると縮小します。)全体がブラウザ内に入り操作しやすくなります。しかし、単純に縮小すると文字等がつぶれて読めなくなってしまいます。「アンチエイリアスをかける」を選択しておくともより滑らかに縮小され見やすい画面になります。

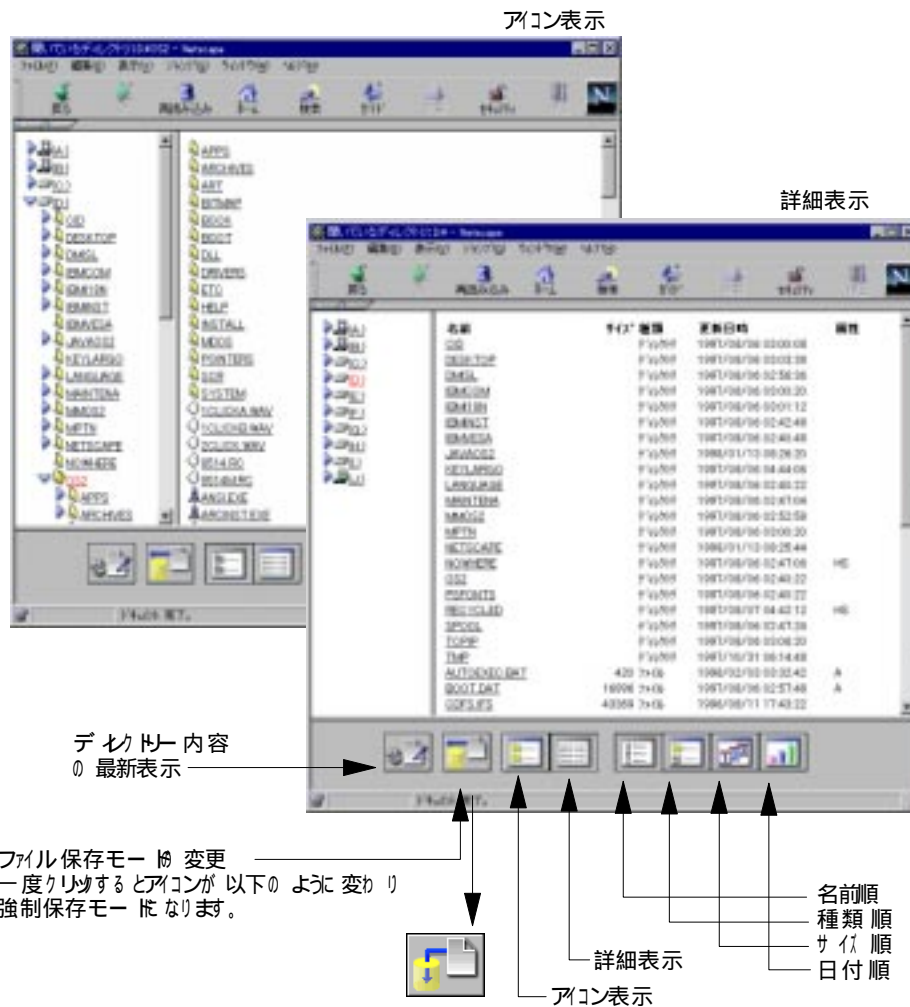
(ブラウザ下方の  < - >  でアンチエイリアスをオン/オフできます。)

「ファイル転送」パネル

ファイル転送

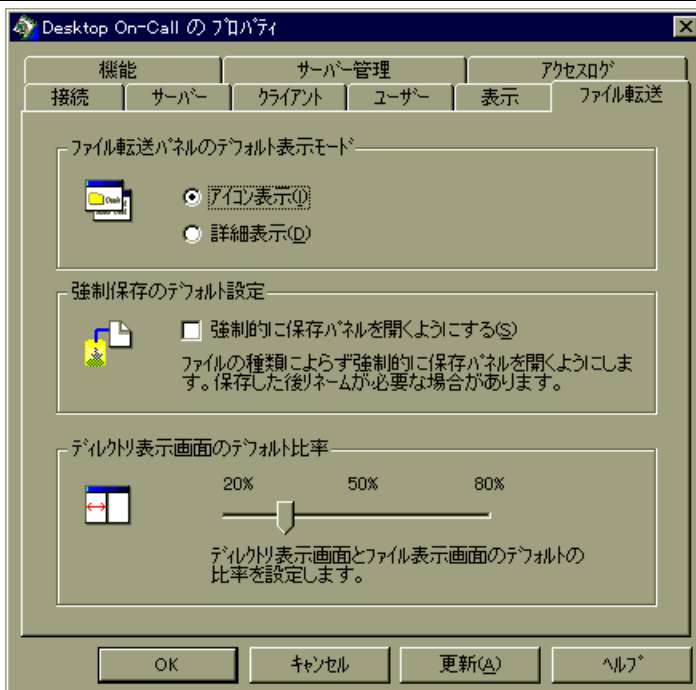
Desktop On-CallがインストールされているPCから、ブラウザ側のPCにファイルをダウンロードできます。

1. ブラウザ下方の  を選択してください。
☞ ファイル転送の画面になります。



- ダウンロードしたいファイルをクリックしてください。

■ プラザにプロキシサーバーが指定されているとファイル転送はできません。対処方法、[102ページ「ファイル転送ができない」](#)を参照してください。



強制保存モード

受信したいファイルをクリックすると、転送せず表示されてしまうファイルがあります。この場合、強制保存モードを使用して、クライアントでファイルを取得するときに中身が表示されるのを防ぎ、ファイルの保存パネルを表示させることができます。クライアントにインターネット・エクスプローラをご利用の場合は、このモードはご利用になれません

「機能」パネル

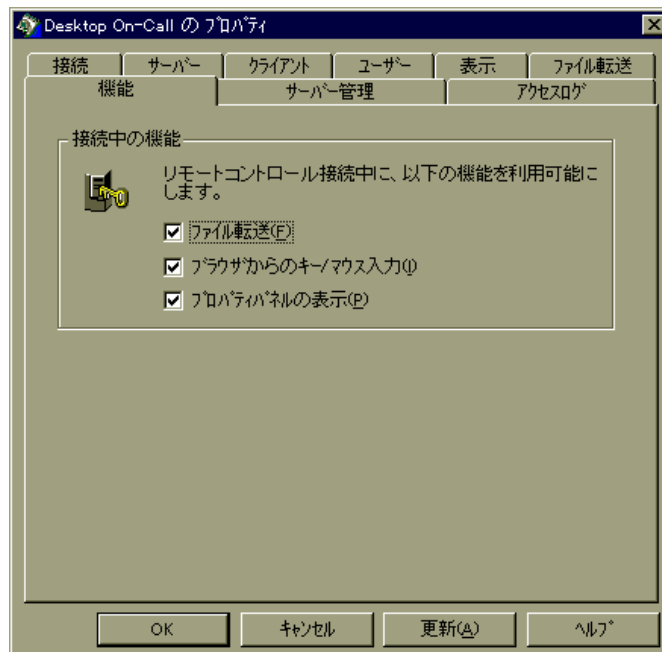
機能の制限

Desktop On-Callは、PCの全ての操作がリモートから可能なので、リモートから可能な操作を制限したい場合があります。制限したい機能のチェック・マークをはずしてください。

- ファイル転送：チェック・マークを取ると、ファイル転送は禁止されます。
- ブラウザからのキー/マウス入力：チェック・マークを取ると、リモートからの一切の操作はできなくなります。監視のみの機能となります。

■ リモートブラウジング専用版の違い
リモートブラウジング専用版、監視のみの目的で使うバージョンです。インストール後、プロパティ設定等は一切変更できません。一方「ブラウザからのキー/マウス入力」のチェックマークを取った場合は、Desktop On-Callがインストールされているマシン上で、プロパティパネルを開き、再び、「ブラウザからのキー/マウス入力」にチェックマークをつけるとリモートコントロールが可能となります。

- プロパティパネルの表示：リモートからDesktop On-Callのプロパティを変更されたくない場合、このチェック・マークを取ります。



「サーバー管理」パネル

ラUNCH・マップ機能を使う

ラUNCH・マップ機能を使うには、「ラUNCH・マップ」を選択してください。

ラUNCH・マップを経由せず直接リモート・コントロール画面に行きたい場合は、「リモート・コントロール」を選択してください。

ラUNCH・マップ機能の紹介は、☞79ページ「ラUNCH・マップ機能」を参照してください。



「アクセスログ」パネル

このPCにアクセスしてきたユーザーのIPアドレス等のログが表示されます。



■ リーからのログの消去はできません

第5章 注意事項

ファイル転送ができない

Desktop On-Call Version 2.5から、ブラウザにプロキシを指定しているとファイル転送ができなくなりました。セキュリティ・ハンドリングが厳格になったことが理由です。これを回避するには、ブラウザ接続（プロキシ）設定の中の、

「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない」あるいは「次ではじまるドメインにはプロキシサーバーを使用しない」等のリストにイントラネット（企業内インターネット・ネットワーク）アドレスを指定する。あるいは、「イントラネットのアドレスにはプロキシを使用しない」などの項目を選択してください。

マルチ・ディスプレイについて

Windows 98のマルチ・ディスプレイ機能は、Desktop On-Callは、サポートしていません。

全画面表示のセッションに行ってしまった時の対処方法

Desktop On-Callは全画面表示をサポートしていません。全画面表示になってしまったときは、以下の方法で対処してください。

Windows 95/98 および Windows NTの場合

Alt + Enterを押してください。

OS/2 Warpの場合

Ctrl + Escを押してください。

クライアントから日本語入力をする

クライアントの日本語入力システムをオフにしてください。

サーバー・コントロール画面にあるサーバー側のデスクトップの日本語入力システムをオンにしてください。

- サーバー側日本語入力(オン/オフ)の切り替えは、サーバーコントロール画面の[漢字]エミュレーションキーを切り替えることにより行うことができます。
- サーバーが OS/2 Warp 3.0 上で動作している場合、ローマ字モードをオンにするには、コマンドプロンプトから [setroman on] と入力します。ローマ字モードをオフにするには [setroman off] と入力します。

リモートから漢字入力をしている場合、エミュレーション・キーの変換を用いるよりスペースキーを変換キーとして用いると便利です。(ただし、お使いになっているかな漢字変換プログラムによっては、スペースキーが変換に割り振られていない場合もあります。)

Mac OSで使用する時

Internet Explorer

Mac OS付属のInternet Explorerで使用する時は、RMJ(Mac OS Runtime for JAVA)をインストールしてください。最新のMRJ2.0をお勧めします。パフォーマンスがあがります。

- ログインパネルが2回でることがあります。同じユーザー ID、パスワードを入れてください。

Netscape Communicator

システムフォルダの中の機能拡張フォルダにNetscape Communicator [付属のJava Accelerator for PowerPC](#)をドラッグ&ドロップで入れてください。動作速度が改善されます。Power Macの場合にかぎりません。

リモート・コントロール後ブラウザを終了する

ユーザーID, パスワードを入力すると、操作が終わった後、ブラウザを起動したままにしておいた場合、再読み込み(ReLoad)を行うと、USERID, Passwordを要求されずに、デスクトップにアクセスできてしまいます。(Netscapeの場合) セキュリティー上の観点から操作が終了したらブラウザを終了するようにしてください。

<p>■ Internet Explorerの場合は USERID, Passwordを要求してきません。これは、ブラウザの仕様によるものです。</p>
--

リモートからディスプレイ・モードの変更は避ける

ディスプレイモードのブラウザからの変更はテスト用ビットマップの表示がうまくでないことがあります。また回線速度の関係で、ダイアログからの問いに対してタイムアウトで答えられないこともありますので、あまりお勧めできません。

Netscape Navigator 2.02 for OS/2を使用するとき

Warp4でNetscape Navigator2.02 for OS/2を使用してキー入力するときは一度ブラウザの画面上でマウスをクリックしてから入力してください。これはフォーカスをアプレットに移動させないと、入力がアプレットにいかないためです。

ブラウザに表示される画面に縦横の色むらが表示される

「Desktop On-Call のプロパティ」の「クライアント」ページで設定する「主に使用するブラウザ」として、現在使用中のブラウザが正しくセットされていますか。これが異なる場合には、色むらが発生する場合があります。なお、この設定を変更した場合には、ブラウザ側のリロードボタンを押してください。 Netscapeを16色やTRUEカラーで使用している場合は、その他を選択してください。

「既にユーザーXXXXにコントロールされています」と表示される

クライアント側のブラウザのリロードボタンを押すと、「このマシンは既にユーザーXXXXにコントロールされています。」と表示されてしまう場合は 再度リロードボタンを押してください。

「TCP/IPがインストールされていません」と表示される

Windows 95/98あるいはNTにTCP/IPが正しくインストールされていません。Windowsのマニュアルに従って、TCP/IPを正しくインストールして下さい。

「DHCPサーバーと接続でない」「IP Address を取得できない」と表示される

Desktop On-Callは、DHCPサーバーからIP アドレスをダイナミックにアサインされる環境でも正しく動作します。しかしDHCPサーバーが正しく動作していなかったり、もともとDHCPサーバーがないのにDHCPサーバーからIP アドレスを取得する設定になっている場合に、Desktop On-Call を起動したとき、以下のエラーメッセージが表示されることがあります。

「DHCPサーバーと接続できません。IP Address を指定して下さい。詳しくはマニュアルを参照して下さい。」あるいはDesktop On-Call のメイン画面の URL アドレス欄に、「IP Address を取得できません。」

DHCPサーバーがないのにDHCPサーバーからIP アドレスを取得する設定になっていませんか。以下をチェックしてください。

Windows 95/98 の場合：

「コントロールパネル」->「ネットワーク」->「ネットワークの設定」->「TCP/IP」->「IP アドレス」の設定が「自動的にIPアドレスを取得」になっていませんか。

Windows NT の場合：

「コントロールパネル」->「ネットワーク」->「プロトコル」->「TCP/IP」->「IP アドレス」の設定が「DHCPサーバからIPアドレスを取得する」になっていませんか。

これらが設定されていて、ダイヤルアップでプロバイダに接続していない、DHCPサーバーが無効であるなどの場合、サーバーに IP アドレスが割り振られていないため、このようなメッセージが表示されます。正しく IP アドレスがセットされている環境でご使用ください。

ブラウザにURLを指定しても反応がない

「Desktop On-Callサーバーの状況」が「待機中」になっているか確認してください。

「Java.Lang.OutOfMemoryError」 と表示して止まる

クライアント側のマシン上でサーバー画面を表示するための十分なメモリが確保できていません。次のいずれかの方法を試してみてください。

- クライアントマシンのスワップ領域 (Windows 95/98 の場合はCドライブの残り容量) をハードディスク上に十分に確保する。
- クライアントマシンの画面モードが 32K 色表示モード以上の場合は、256 色表示モードにする。
- "Desktop On-Call プロパティ" の "サーバー" のページで、通信プロトコルが "LAN に最適化" になっている場合、"ダイヤルアップ接続に最適化" にする。
- サーバマシンの画面解像度を落とす。
- クライアントマシンのメモリを増設する。

IE使用時、スクロール・バーを使用すると画面表示が乱れることがある。

もう一度、スクロールし直す。あるいは更新ボタンを押してください。

その他、最新情報は、Readme.txt 又はホームページを参照してください

商標

IBM, Aptiva, ThinkPad, OS/2, Desktop On-Call、ホームページ・ビルダーは、IBM Corp.(米国)の商標です。

Java, HotJava, 100% Pure Javaは、Sun Microsystems, Inc(米国)の商標です。

Apple, Mac, Macintosh, PowerMac は、Apple Computer Inc, (米国)の商標です。

AdobeおよびAcrobatはアドビシステムズ社の商標で、特定の法域で登録されています。

UNIXは、X/Open Company Limitedがライセンスしている米国ならびに他の国における商標です。

Microsoft, Windows, Windows NTは、Microsoft Corp.(米国)の商標です。

製品名または会社名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

この「プログラム」は、RSA Data Security, Inc. からライセンスされた機密保護技術を含んでいます。この技術は、以下の著作権表示とともに同社からライセンスされたソフトウェアにより提供されます。

Copyright (c) 1998 RSA Data Security, Inc. All Rights Reserved.

特記事項

本書で言及されるIBM*製品、プログラム、またはサービスのなかには、日本で発売されていないものも含まれます。このことは、弊社がこれらのIBM製品、プログラム、またはサービスを、日本で発売する意図があることを示すものではありません。

本書で、IBM製品、プログラム、またはサービスに言及している部分があっても、該当製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、又はサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらの製品、プログラム、またはサービスの評価および検査はお客様の責任で行っていただきます。

本書で解説される主題についてIBMがその特許権（特許出願を含む）を所有していることがあります。本書は、これらの特許権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权の照会は、下記の宛先に書面にて行ってください。

〒106-8711

東京都港区六本木3-2-31

IBMワールド アジア トレードコーポレーション

コマーシャル リレーションズ